

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)
教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

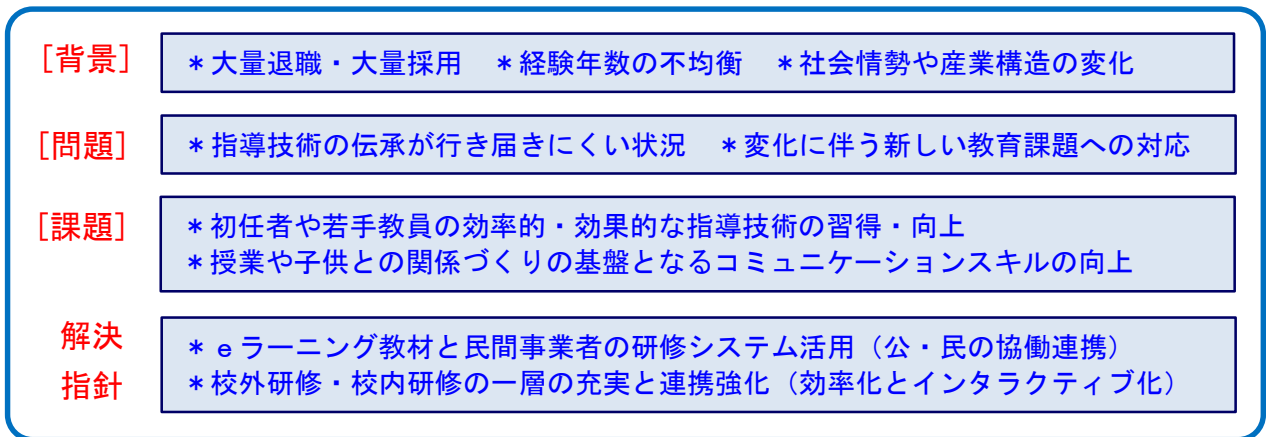
実施報告書

プログラム名	eラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム
プログラムの特徴	<p>教員の大量退職，大量採用の影響で教員の経験年数の不均衡が進む中，教員全体に占める若手教員の割合が高まり，採用後に経験豊富な先輩教員から実地で行われてきた指導技術の伝承が行き届きにくい状況が生まれています。また，社会情勢や産業構造が変化し，複雑化する中で，初任者であっても新たな教育課題に対応するための授業力が求められているといえます。</p> <p>本研修プログラムは当社の講師研修システムをベースに，①授業基本動作や指導基本スキルといった基本ノウハウをeラーニング教材で学ぶ反転学習，②実践的な学習でコミュニケーションスキルの向上やノウハウ習得を図る校外研修，③振り返り学習で個に応じた補完と定着を図る校内研修で構成しています。</p> <p>足立区初任者研修や宮崎市初任者研修での実践を通して，eラーニング教材の活用により，研修の効率化が図られ，実践中心のインタラクティブな校外研修と個に応じた校内研修により，基本ノウハウの定着とコミュニケーションスキルの向上に一定の成果が得られ，現状の課題解決の一助となったものと考えられます。</p> <p>今回は当社のeラーニング教材（教師力養成塾e－講座）を使用しましたが，本研修プログラムは各自治体が持つ映像教材やeラーニング教材等を活用することで実施可能なものです。成果物（授業力向上ハンドブック）も，東京都での使用を想定して構成しましたが，他の自治体において本研修プログラムを実践する際，教材開発の参考事例としていただけるものとなっています。</p> <p>効率的かつインタラクティブな研修の実践による初任者研修の充実，初任者の授業力向上にお役立ていただければ幸いです。</p>

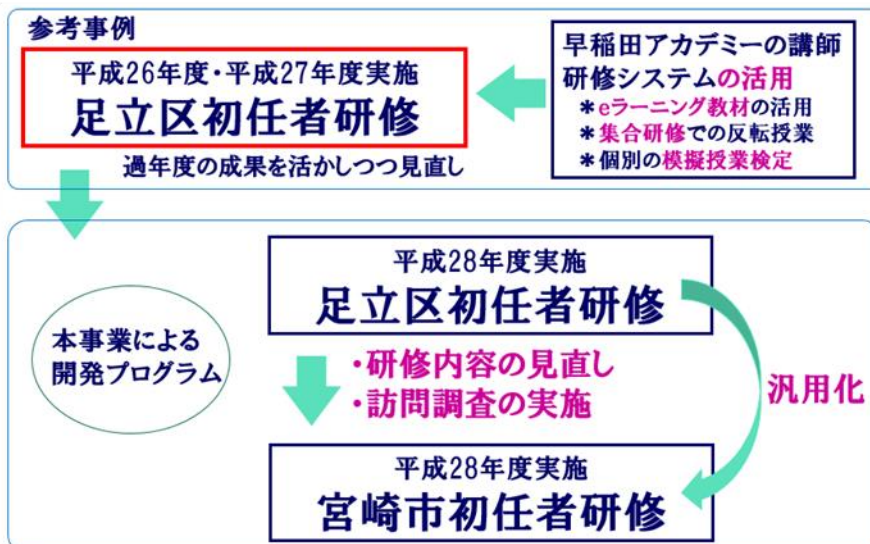
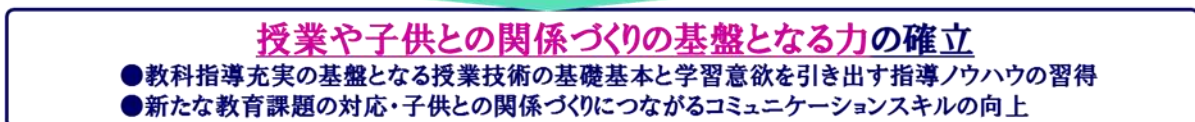
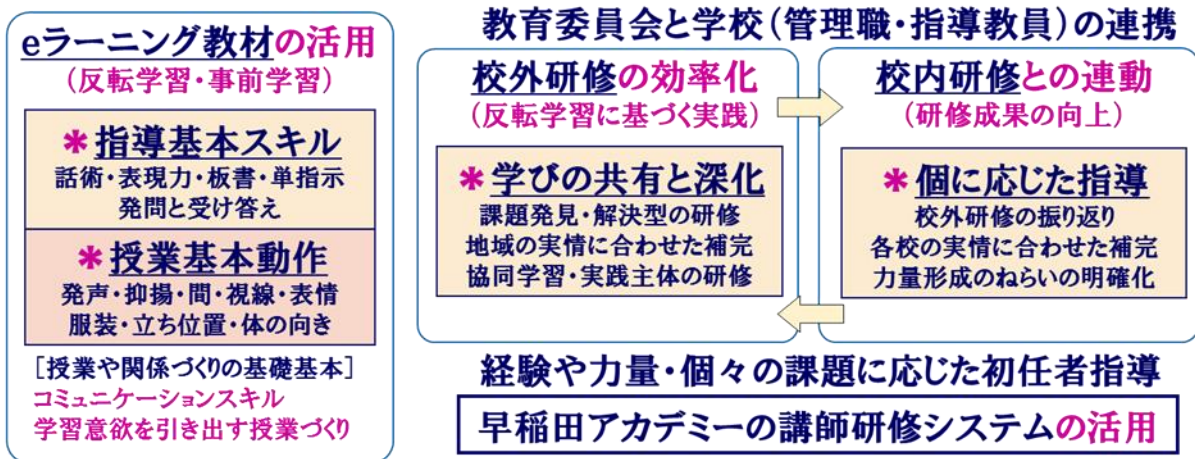
平成 29 年 3 月

機関名 株式会社早稲田アカデミー

プログラムの全体概要



[開発] eラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム



I 開発の目的・方法・組織

1 開発目的

社会情勢や産業構造の変化や複雑化，加速度的なグローバル化・情報化が進行する中，我が国が将来に向けて継続的に発展・繁栄を維持していくためには，「答えのない課題に最善解を導くことができる能力」や「分野横断的な幅広い知識・俯瞰力」の育成，様々な分野で活躍できる質の高い人材育成が必要不可欠です。子供たちの育成の中核を担う教員の資質能力向上，教員の養成・採用・研修は最重要課題として位置付けられ，「問題発見・解決型の学び」や「他者との協同・対話による学び」，「見通しを持ち，振り返りによる主体的な学び」が経験できる授業，新しい社会の在り方を自ら創造することができる子供たちを育む力，新たな教育課題へ対応する力の向上が求められています。

しかしその一方で，団塊世代の退職に伴い教員採用者数の増加が進んでいます。教員採用試験受験者数が概ね一定であるため競争倍率が低下傾向にあること，年齢構成的にベテラン教員と若手教員の二極化が進み，学校運営や若手育成の根幹を担う中堅教員の割合が相対的に低下していることなどから，経験年数の不均衡が進み，中堅・ベテラン教員からの知識・技能の指導・伝承が自然に行き届くことが難しい状況も生まれています。多くの自治体や学校が若手教員の指導・育成に課題意識を持っており，当面は若手教員の割合が高まる傾向が続くからこそ，法定研修である初任者研修（校外研修・校内研修）の一層の充実が求められていると言えます。

私たちは公教育との協働を通じて，改めて全教員に占める若手教員の割合が高まり，教員採用後に経験豊富な中堅・ベテラン教員から実地で行われてきた知識・技能の伝承や指導が行き届きにくい状況が生じていること，教科指導内容の充実以前に授業や指導の基本となる動作や技術，子供や保護者と良好な関係を構築するために求められるコミュニケーションスキルに課題を抱えている若手教員が多いこと，新たな教育課題へ対応するための基礎力を高める必要があることを確信しました。

本事業では前述の背景及び課題意識の下，当社が創業以来培った講師研修システムとeラーニング教材（映像講座），教師力養成塾（現職教員・教員志望者対象研修・公教育支援事業）の取組を通じて培った教育委員会・学校等との協働経験を活かし，汎用的な研修プログラムと研修教材例の開発を目指すことを指針としました。そして，開発にあたっては初任者の授業基本動作や指導基本スキルの向上，新たな教育課題へ対応する力の伸長のために様々な研修機会に活用していただけるように留意しました。

2 開発の方法

「eラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム」の開発にあたり，当社が平成27年度に受託した足立区初任者研修を参考事例に設定し，研修内容と実施状況の振り返りと見直し・検討を行いました。当該研修は，東京都足立区の初任者を対象にeラーニング教材（映像講座）と対面指導を組み合わせて実施したもので，校外研修を軸とした初任者の授業力向上に資する汎用的な研修プログラムの開発における先行事例と言えます。そこで，平成28年度足立区初任者研修を開発する研修プログラムのベースとし，開発に取り組みました。

(1) 平成 28 年度足立区初任者研修の実践

平成 27 年度に実施した足立区初任者研修の受講者・実施者（区教委）の評価資料（アンケート・ヒアリング等）より、eラーニング教材（映像講座）と対面指導を組み合わせに行った研修が、初任者の授業基本動作や指導基本スキルの向上や子供や保護者と良好な関係を構築するために求められるコミュニケーションスキルの向上に有効であり、校外研修と校内研修との連携を図る上でも有効であることが確認できました。

そのためeラーニング教材（映像講座）による反転学習（映像受講と受講レポート作成）を5月までに行った上で、5月（校外研修第2回）と6月（校外研修第3回）にスクーリングを実施し、講義・演習・グループ協議で内容の補完と深化を図り、模擬授業診断による定着確認を図るプログラムを定めて実施しました。

(2) 教育委員会（又は教育センター）等の訪問調査

法定研修実施主体となる教育委員会（又は教育センター）等を訪問し、主に初任者研修（校外研修）の実施状況や留意検討事項についてヒアリング調査を行いました。合わせて当社が開発したeラーニング教材（映像講座）、平成28年度足立区初任者研修で実践したスクーリング（講義・演習・グループ協議、模擬授業診断）について紹介し、自治体での活用可能性について担当者レベルの所感も伺いました。

訪問調査で得た所感や校外研修に関する資料等を参考に、平成28年度足立区初任者研修で実施した反転学習とスクーリングの実施状況等の振り返りを実施しました。その結果、「eラーニング教材（映像講座）等を活用した反転学習と、その学習を補完し深化を図る校外研修プログラム」は特に汎用性が高いと考えられたため、他の自治体において同様の研修を実施する場合を想定した留意事項の整理、見直しを行うことで汎用化に取り組みました。

(3) 平成 28 年度宮崎市初任者研修の実践

足立区初任者研修の実施状況等の振り返りを元に、見直しを行った「eラーニング教材等を活用した反転学習と、その学習を補完し深化を図る校外研修プログラム」について、宮崎市教育委員会（宮崎市教育情報研修センター）の協力を得て、当該研修プログラムを宮崎市初任者研修の一環として実践しました。宮崎市では、10月に教育委員会から研修の通知を行い、11月に反転学習（映像受講と受講レポート作成）、12月に校外研修（講義・演習・グループ協議による内容の補完と深化）を実施しました。

(4) 外部評価委員会の実施と成果物の作成

足立区と宮崎市の初任者研修で実施した内容と初任者及び実施者による評価等（アンケート、レポート分析等）をまとめた上で、学識者及び教育行政実務者による外部評価委員会（事業説明、質疑応答、講評）を行い、開発・実践した「eラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム」の成果と課題の考察等を行う機会を持ちました。

(1)～(4)を踏まえ、当該研修プログラムを実践する際の参考資料として、研修教材例と記録

映像を制作することで、汎用化を図った研修プログラムの波及と活用促進に注力しました。

3 開発組織

(1) 運営事務局

本事業を進めるにあたり、当社で教師力養成塾（現職教員・教員志望者を対象に、進学塾で培った指導ノウハウと社内外で培った研修ノウハウを組み合わせ提供する研修及び公教育支援事業）を主管する教育事業推進部事業推進課を運営事務局とし、以下の役割分担の下取り組みました。

■事業実施担当者一覧

No	所属・職名	氏名	担当・役割
1	教育事業推進部事業推進課 課長	杉山 正典	事業責任者（全体統括・プログラム開発） 教師力養成塾責任者
2	教育事業推進部事業推進課 上席専門職	牛嶋 孝輔	事業実務担当（研修講師） 教師力養成塾チーフインストラクター
3	教育事業推進部事業推進課 上席専門職	大間 美千代	事業実務担当（調査研究）
4	教育事業推進部事業推進課 事務主任	川上 愛美	事業実務担当（庶務経理・研修運営他） 教師力養成塾事務局
5	教育事業推進部事業推進課 事務	石原 麻江	事業実務担当（事務連絡他）

(2) 連携先及び協力先

①連携先（研修実践）

足立区教育委員会学校教育部教育指導課

宮崎市教育情報研修センター

②協力先（訪問調査等）

初任者研修の実施状況や内容（特に留意工夫されている点や取組を検討されている点）についてのヒアリング、法定研修や若手教員育成の取組に関する視察について、以下の教育委員会等にご協力をいただきました。

[一覧] ※五十音順

大阪教育大学教職教育研究センター、大阪府教育センター、大阪府豊能地区教職員人事協議会、神戸市教育センター、滋賀県総合教育センター、静岡県総合教育センター、奈良市教育センター、浜松市教育センター、宮崎県教育研修センター

(3) 外部評価委員会

開発・実践した「eラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム」の成果と課題の考察等を行う機会として、以下の学識者及び教育行政実務者に外部評価委員を依頼し、外部評価委員会（事業説明、質疑応答、講評）を実施しております。

■外部評価委員（敬称略）

所属・職名	氏名	担当・役割
国立大学法人大阪教育大学教職教育研究センター 特任教授	島 善信	外部評価委員
国立大学法人大阪教育大学教職教育研究センター 教授	岡田 耕治	外部評価委員
国立大学法人大阪教育大学教職教育研究センター 准教授	中堂 寿美代	外部評価委員
国立大学法人大阪教育大学教職教育研究センター 准教授	麥田 葉子	外部評価委員
大阪府教育センター教育企画部学校経営研究室 室長・首席指導主事	大崎 弘司	外部評価委員
大阪府教育センター教育企画部学校経営研究室 指導主事	川浪 裕子	外部評価委員
奈良市教育センター教育支援課 課長	廣岡 由美	外部評価委員
奈良市教育センター教育支援課 課長補佐	垣見 弘明	外部評価委員

II 開発の実際とその成果

1 平成 28 年度足立区初任者研修

(1) 背景

近年、経験年数の不均衡により、中堅・ベテラン教員からの知識・技能の指導・伝承が自然に行き届くことが難しい状況において、ベテランが経験則的に実践している授業や指導のノウハウ（当然のように必要とされる基礎基本）が上手く伝承できていない状況があります。

東京都足立区教育委員会においても、初任者教員の増加に伴って若手教員の割合が高まり、学校現場では指導者となる教員、若手教員とも校務に追われて、十分な研修時間の確保が難しく、ベテラン教員の経験や教育技術を継承しきれない、という状況が生じ、課題意識を持たれていました。そして、課題解決策のために初任者がいつでも自主的に取り組むことができ、かつ受講後の評価と振り返りもできる仕組みの導入を検討されていました。

そこで、ベテラン教員の知見の伝承が難しいのであれば、授業づくりや保護者対応に必要とされる基礎的知識・技能の習得については、eラーニング教材等で代替又は補完する仕組みが有用であると考えました。

実際足立区教育委員会は、校務の隙間や職場外でも取り組める eラーニング教材（映像講座）等を活用し、初任者の資質能力向上の土台となる知識・技能の習得を弾力的に図り、学んだ内容を補完する仕組みの構築に取り組み、当社の「eラーニング教材（映像講座）による反転学習」「校舎での実地研修」「本社での集合研修（授業実践と相互評価）」「本社での検定（定着度確認と合否判定）」を組み合わせた講師研修システムを活用した研修プログラムを採択されました。そして平成 26 年度より、当社は小中学校教員の指導力向上（研修事業）による児童生徒の学力向上並びに教育環境の充実の一環として初任者の授業基礎研修を担当しています。

そして平成 27 年度足立区初任者研修で実施した研修プログラムについて、受講者・実施者より、初任者の授業基本動作や指導基本スキルの向上や子供や保護者と良好な関係を構築するために求められるコミュニケーションスキルの向上に有効であり、校外研修と校内研修と連携を図る上でも有効であると評価をいただきました。

一方で、反転学習（映像受講と受講レポート作成）やスクーリング（集合研修で行った講義・演習・グループ協議及び個別の授業検定）の実施内容、研修後の取組（校外研修の補完や振り返りを行う校内研修での活用）等において、改善すべき点もありました。よって平成 28 年度足立区初任者研修の研修プログラムの作成・実施においては、これまでの課題の改善による更なる研修内容の効率化と充実により、今必要とされているベテラン教員の経験や教育技術のスムーズな継承に代わるだけでなく、初任者の新たな教育課題に対応する力の伸長にも資するものであることも必要であると考えました。

(2) ねらい

以上の背景を踏まえ、平成 28 年度足立区初任者研修では、以下の 3 点をねらいとしました。

- ① 時間と場所を選ばずに使える eラーニング教材（映像講座）の活用により、ベテラン教員の経験や教育技術が伝承しきれない状況を補完し、研修の効率化と反復学習による初任者の授業基本動作や指導基本スキルの向上、子供や保護者と良好な関係を構築するために求められるコミュニケーションスキルの向上を図る。
- ② スクーリングを、eラーニング教材（映像講座）の内容を補完し、学習内容を深める実践的な学びの場とするために、校外研修で行う講義・演習、グループ協議等を、これまで以上にアクティブラーニングの手法を取り入れた参加型の研修として設定し、学習内容の定着を図ると共に、その手法の習熟を目指す。
- ③ eラーニング教材（映像講座）と受講レポートの活用により校外研修の効率化を図ると共に、その補完や振り返りが初任者個々の課題を把握し、学校ごとの個別の状況に応じて管理職や指導教員によって行われる校内研修等での指導に活かされる仕組みづくりを目指す。

さらに、以下の改善を行いました。（平成 27 年度に実施した研修の課題を解決するため）

- ・ eラーニング（映像講座）による反転学習について、視聴期間とレポート提出期日を前年度より短縮することで、授業基本動作や指導基本スキルについて短期間に集中的に取り組み、早くから日々の授業実践で活かされるようにしました。

- ・スクーリング（第1回・第2回）の実施時期を前年度よりそれぞれ1か月程度前倒すことで、反転学習後にタイムリーに補完と振り返りが行われるようにしました。
- ・スクーリング（第1回）で行う演習（模擬授業実践やロールプレイ）について、数名の代表者が実践したものを講師が指導講評する形式から、グループ毎の相互評価による学習を採り入れ、全受講者が実践する形式に変更することで、より参画型の研修となるようにしました。
- ・スクーリング（第2回）での内容を前年度まで行っていた模擬授業検定から模擬授業診断に名称を変更することで、合否結果に意識が向きがちになってしまう点を改善し、受講者の習得・実践状況を可視化し、課題を焦点化することで校内研修等での指導に活かされることを目指しました。

(3) 対象及び人数

足立区内小中学校配属の教員の内、採用1年目で区が指定した教員が受講対象となっており、平成28年度足立区初任者研修の対象者は103名でした。区の方針により正規採用者に加え、期限付任用講師も対象に含まれています。eラーニング教材（映像講座）の利用ID及びパスワードも全受講者に付与しています。スクーリング（第1回・第2回）は全受講者が対象ですが、小集団に分けて実施することで、学習効果の向上を図りました。

(4) 期間及び日程、会場、講師

一連の研修プログラムは校外研修を軸とした積み上げ型の研修プログラムとして組み立て、以下のような期間及び日程で進めました。

① eラーニング教材（映像講座）による反転学習

全受講者がeラーニング教材（映像講座）を利用するためのID及びパスワードの付与を受け、所属校で各自学習（校務の隙間を活用した自学自習、指導教員の指導・助言を受けながらの校内研修活用等）を進めました。

4月1日（金）：各学校に研修の趣旨と流れを通知。ID及びパスワードを送付。

4月4日（月）：第1回初任者研修にて受講者に対し、オリエンテーションを実施。

4月26日（火）：研修計画の作成・第1講座～第4講座（p.10参照）までの視聴とレポート作成を行う。

5月31日（火）：作成したレポートを教育委員会（教育指導課）へ提出する。

②第1回スクーリング（講義・演習・グループ協議）

5月10日（火）14：00～16：30 会場：学びピア講堂

受講者数：32名 担当講師：牛嶋 孝輔（教師力養成塾）

5月17日（火）14：00～16：30 会場：学びピア研修室1

受講者数：32名 担当講師：牛嶋 孝輔（教師力養成塾）

5月24日（火）14：00～16：30 会場：学びピア研修室1

受講者数：34名 担当講師：牛嶋 孝輔（教師力養成塾）

※3日程とも同じ流れ・内容で実施

③第2回スクーリング（模擬授業診断）

6月14日（火）14：00～16：30 会場：江南中学校

受講者：33名 授業診断：牛嶋 孝輔，梶 恒雄／進行運営：杉山 正典，川上 愛美

6月21日（火）14：00～16：30 会場：江南中学校

受講者：32名 授業診断：牛嶋 孝輔，梶 恒雄／進行運営：杉山 正典，川上 愛美

6月28日（火）14：00～16：30 会場：江南中学校

受講者：35名 授業診断：牛嶋 孝輔，梶 恒雄／進行運営：杉山 正典，川上 愛美

④第3回スクーリング（まとめ）

1月24日（火）14：00～16：30 会場：学びピア講堂

受講者：97名 担当講師：牛嶋 孝輔，杉山 正典

(5) 各研修項目の配置の考え方

前述のねらいを達成するため、全体を第一期，第二期，第三期，第四期，最終期の5段階に分け、次のような考え方の下で各研修項目について構成しました。

第一期（4月）

eラーニング教材（映像講座）による反転学習期間としました。映像講座の視聴とレポートの作成により授業基本動作や指導基本スキルを学習し、ベテラン教員の経験や教育技術の伝承が難しい状況を補完すると共に、事前課題に取り組んだ状態で校外研修に臨む態勢を整えることで、校外研修の効率化と充実を図りました。

第二期（5月）

eラーニング教材（映像講座）で学習した授業基本動作と指導基本スキルについて、校外研修（第1回：講義・演習・グループ協議）とその振り返りで理解を深め、習得を図る期間とし、受講者個々の課題についても管理職や指導教員からも指導を受ける機会としました。

第三期（6月～7月）

授業診断実施期間とし、eラーニング教材（映像講座）で学習した授業基本動作と指導基本スキルの定着度を校外研修（第2回：模擬授業診断）で確認し、その事前準備と振り返りを通じて習得を図る期間としました。尚、授業診断結果によって可視化され、焦点化された個々の課題については夏季宿泊研修で持ち寄り、校内研修等で確認した改善指針と改善行動をふまえた模擬授業等を指導主事が確認し、指導助言を行うことで、授業診断で得た学びと気づきを風化させないようにしています。

第四期（9月～12月）

指導教員による授業観察に基づく指導助言，研究授業，校内研修等を中心に授業基本動作と指導基本スキルを教科指導の実践で活用できているかどうかを確認し，向上に努める機会としました。授業診断結果票（以下，振り返りシート）に9月以降の授業実践で留意すべき事項を記入するワークシートを付加し，記入した行動指針等が実行できているか12月に指導教員が授業観察を行い，指導を行いました。

最終期（1月～3月）

一連の研修プログラムを総括し、校内研修等を活用して、個々の課題の改善と授業実践力の向上を図る期間としました。校外研修（第10回・1月）は「どの子にも分かる授業づくり」をテーマとし、2年次に向けた指針を明確にする会として実施しました。その際、ジグソー法等のアクティブラーニングの手法を用い、個別ワークで考察したものをグループワークで深め、学びを全体発表で共有する協同学習の流れを、初任者が体験的に学ぶ機会となるよう留意しました。

(6) 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

① eラーニング教材（映像講座）による反転学習

【目的】

- ・ eラーニング教材（課題映像と解説映像）を通して、授業づくりの基礎基本を確認する。
- ・ 解説映像で示した対応例により、課題解決の手立ての一例を学ぶ。
- ・ レポート作成を通じて自身の授業を振り返り、課題の抽出と優先順位付けを行い、改善行動の指針を得る。

【内容】

受講者はeラーニング教材（映像講座）を使用した学習を、校外研修の事前学習と位置付け、授業基本動作や指導基本スキルの習得を図りました。映像受講、サブノートによって講座内容の確認と理解を促すだけでなく、各講座のテーマに応じて自らの授業を振り返り、課題の抽出と解決の手立てを考えるレポート作成も行いました。これにより受講者が授業を振り返り、校内研修で受けた指導を整理する学びの履歴作りにつながりました。そして、事前学習で作成したレポートについて指導教員が指導・助言を行うことで、内容の共有と補完も図りました。

【形態】

受講者の所属校において各自学習（校務の隙間等を活用した自学自習、指導教員の指導・助言を受けながらの校内研修活用）を進めました。指導教員による受講者が作成したレポートへの指導・助言や映像講座を一緒に見ながら解説、補完等を行う時間は初任者研修の校内研修の時数が活用されました。

【使用教材】

eラーニング教材（映像講座）は、当社の教師力養成塾eー講座（第1講座「学習する空間づくり」・第2講座「授業を開く」・第3講座「授業を創る」・第4講座「やる気を引き出す」）を利用しました。（以下、eー講座）

※使用教材について

同教材は、当社が開発したもので、365日24時間インターネット環境があれば授業と保護者対応の基本をコンパクトに学ぶことができる映像講座（1テーマは5分程度で、校務の隙間時間や通勤途中等、場所を選ばずいつでも視聴できる研修ツール）です。受け身になりがちになるeラーニングの学習について、映像の構成と設定を工夫し、課題発見・解決型学習を行うことができる内容（問題点とその原因、改善策を考え、更に自らに置き換え、考察と振り返り）としています。

映像講座	テーマ一覧
第1講座	挨拶
	視線
	単指示
第2講座	聴く姿勢
	熱意
	約束
第3講座	目標
	板書
	宿題
第4講座	発問
	動機付け
	やる気維持

[進め方]

事前学習が計画的かつ効率的に取り組まれるよう校長経由の通知を行うだけでなく、第1回校外研修の一部を利用し、e-講座による反転学習とレポート作成の趣旨、第1回スクーリング及び第2回スクーリングのねらいの説明、受講レポート全4枚の作成と提出期日の確認を行いました。年間を通じた研修の流れと全体像を説明することで受講者に学習の見通しを持たせると共に、事前学習の目標の共有を図り、同じ資料を管理職にも配布することで、校外研修と校内研修の連携強化を図りました。

■映像講座の視聴と受講レポート作成の流れ

項目	時間	学習内容と進め方
映像講座の視聴	45分 (15分×3)	3つのポイントに関する課題映像と解説映像視聴を通じた学習 *課題映像(改善すべき点のある授業風景)より、改善すべき点の考察と書き出し。解説映像(改善の指針や対応例の紹介)より、サブノートを埋めながら指導場面毎の対応要点確認・整理する。
チェックテスト	10分	学習した指導場面に関してランダムに4択出題(20問80点合格)
レポート作成①	15分	サブノートで学びの振り返り、自己課題の分析 *課題の中で優先順位が高いものに、解決指針と具体的な手立てを考え、レポートにまとめることで課題を明確にする。
授業での実践	—	レポートを踏まえ、自己課題の解決に必要な改善の手立てを実行
レポート作成②	15分	実践後、実践前と比べて自身の授業の進め方や児童生徒に変化・変容が見られたと感じたこと等、実践の成果を記入
指導講評	30分	完成したレポートの指導教員への提出、指導教員より授業観察等を踏まえた指導助言
合計	115分	管理職所見欄の記入レポートを教育委員会教育指導課へ提出

※上記の受講レポート作成を期日までに4講座分行うことを校外研修の事前課題としています。

e-講座を活用した反転学習のサイクル

The diagram illustrates the e-learning cycle with four stages, each represented by an image and a text box:

- 課題映像 (2分前後)**: A teacher in a classroom.
- 改善点考察 (約3分)**: A whiteboard with handwritten notes.
- 解説映像 (5分前後)**: A teacher presenting to a class.
- サブノート記入 (約5分)**: A document with handwritten notes.

②第1回スクーリング(講義・演習・グループ協議)

[目的]

- ・反転学習を通して確認した授業づくりの基本事項を補完し、内容理解の促進を図る。
- ・レポート作成等で考えた基礎基本を実践するための具体的な行動について、グループワークを通じて整理する。
- ・受講者全員による模擬授業実践と自己評価、相互評価を通じて、授業開始3分間の重要性を確認すると共に、第2回スクーリング(模擬授業診断)に向けた動機付けを図る。



[内容]

第1回スクーリングでは事前学習内容（授業づくりの基礎基本）の確認と振り返りについて、講師による解説・補完、課題映像を使った演習、グループ協議及び模擬授業実践を通じて、再確認・全体共有を行いました。「児童生徒の学習意欲を引き出す授業づくり～『伝える』から『伝わる』へ～」をテーマに掲げ、講義・演習、グループ協議等を通して受講者へ以下の内容に関する理解を促し、実践に必要な要素を考えていただく機会としました。

- ・児童生徒の学習意欲を引き出す授業空間づくりの方法と実践方法を整理する。
- ・児童生徒の学習意欲を引き出すための教師の振る舞いを行動指針に落とし込み、実践する。
- ・行動指針を意識して実践した模擬授業の自己評価・他者評価により、改めて自己課題と改善すべき点を把握し、明日からの授業に活かす。

[実施形態]

第4回校外研修を第1回スクーリングとして位置付けで実施しました。全初任者を3グループ（約30名×3）に分け、前述（4）－②で設定した3日の内の指定日に参加してもらいました。

各日程共通で、以下のようなタイムテーブルで実施しています。



時間	内容
14:00～14:20	研修のねらい・目的、授業空間づくりと授業基本動作の確認（講義）
14:20～15:20	児童生徒が安心して学習できる授業空間づくり（個人・グループ協議）
15:20～16:20	児童生徒の学習意欲を引き出す振る舞いの実践（模擬授業・相互評価）
16:20～16:30	教育委員会より（指導主事講評と事務連絡）

[使用教材]

スクリーンとプロジェクターを使用して e-講座より抜粋した課題映像を視聴した他、個別ワーク及びグループワークではスクーリング用ワークシートを使用しました。

[進め方]

平成27年度までは各日程の参加者全員を対象とした一斉講義と9名前後の小中混合グループによる演習・協議、代表者3名程度による模擬授業とその公開指導という形で実施していました。平成28年度はより参加型の研修となるようにグループ協議にジグソー法の手法を取り入れ、今後の授業実践において協同学習の手法を取り入れる際の参考事例にできる体験的要素を加えました。合わせて模擬授業は全受講者が実践する形に変更しました。各日程とも9名前後の小中混合グループを4グループ設定し、全員が模擬授業を実践し、自己評価と相互評価を行うことで、内容の充実を図りました。

■スクーリングでのグループ協議の実施内容

「児童生徒の学習意欲を引き出す授業空間づくり」を考える（個人・グループ協議）

形態	時間	学習内容と進め方
個人ワーク	10分	反転学習で学んだ内容の振り返り *課題映像を再視聴し、児童生徒が安心して学習に取り組むための教師の振る舞いについて、「挨拶」「視線」「指示」の点から

		考え、具体的にどのように行動すべきかを書き出す。
グループ協議	30分	グループ協議による行動指針づくり *KJ法を用いて個々の意見をグループで分類、協議、共有し、グループでの行動指針をまとめる。 *グループでまとめた行動指針をポスターに書き出す。
全体共有	20分	行動指針を明日からの授業で活用 *各グループでまとめた行動指針と明日からどのような取組を实践するかをグループ代表が発表し、全体で共有を図る。

「児童生徒の学習意欲を引き出すための行動指針」を实践する（模擬授業・相互評価）

形態	時間	学習内容と進め方
模擬授業及び相互評価の実施	40分	行動指針を踏まえた模擬授業の实践 *全員参加・全員実践型のグループワークとして流れを確認。 *司会進行とタイムキーパー、实践と評価コメント順を決定。 *実践者は授業開始時3分間の指導場面を实践。 （入室・号令（挨拶）・健康観察（出欠確認）・ひと言） *他のメンバーは実践者の模擬授業を見て、良いところと改善すべきところを見取り、書き出しも行う。 *实践について評価コメントを2名発表する。
シート作成	10分	「挨拶」「視線」「指示」の点から考えて、学習意欲を引き出すための行動が取れていたかどうか（自分ができていると考えていた通りに、他者に伝わっていたか）の他者評価、他者からの学び
振り返り	10分	研修のねらいに対する自己評価と、研修の学びの振り返り

③第2回スクーリング（模擬授業診断）

〔目的〕

- ・反転学習で学んだ「児童生徒の学習意欲を引き出す授業空間づくり」を实践するための基本事項の定着状況について、模擬授業实践を通じて客観評価を受ける機会とする。
- ・同僚の模擬授業实践を児童生徒の目線で受けることを通じて、他者の発話や導入、めあての提示の方法を知り、参考事例とすると共に、自身の振る舞いの見られ方や言葉の伝わり方について再考する機会とする。
- ・振り返りシートを通して、自分がイメージ（意図）したことと实践したこと（他者が感じた印象・理解した内容）には乖離があることを確認し、可視化され、焦点化された自己課題を改善する方法を考える上で必要なメタ認知の機会とする。



〔内容〕

第2回スクーリングでは、受講者全員が一人5分間の模擬授業（授業開始の5分間）を实践し、反転学習の内容（e-講座のポイント）に基づく規・基準に照らして確認することで、授業空間づくりの基本事項の定着度（発声・正対・視線といった授業基本動作と指示・板書・説明といった指導基本スキルに分けて評価）を確認しました。合わせて学校の教室で実際の指導場面を想定した模擬授業をすることで、第1回スクーリングでの模擬授業实践よりも内容を深めると共に、他者の实践から発話や導入の手法を学ぶ機会となることを目指しました。

作成した振り返りシートを管理職経由で返却し、個人による授業診断結果の振り返りを行うと共に、初任者研修（校内研修）等での管理職・指導教員による指導・助言に役立てました。

【実施形態】

第5回校外研修を第2回スクーリングとして位置付け、全初任者を12グループ（1グループ約9名ずつ）に分け、前述（4）－③で設定した3日程にそれぞれ4枠を設定し、指定日の1枠に参加してもらいました。各日程共通で、以下のような時間枠・タイムテーブルで実施しています。

時間	教室①	教室②	教室③	教室④
14:00～15:10	授業診断実施A班	授業診断実施B班	その他研修C班	その他研修D班
16:20～16:30	授業診断実施C班	授業診断実施D班	その他研修A班	その他研修B班

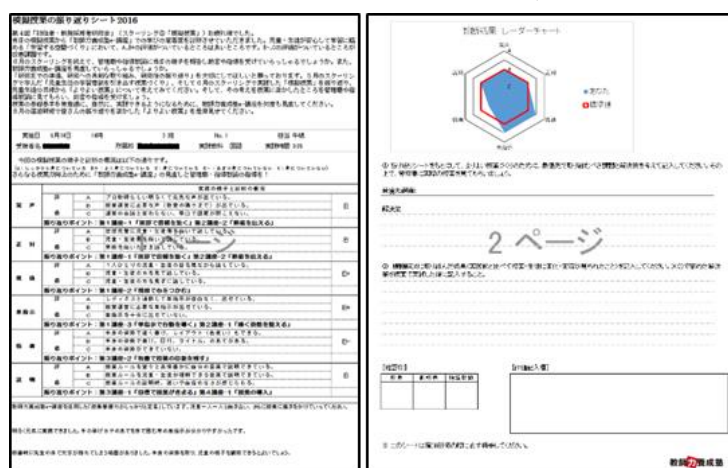
【使用教材】

e－講座の学習内容に準拠した振り返りシートを講師が作成し、個々の課題について可視化を図りました。受講者は相互評価用のアドバイスシートも使用しています。

【進め方】

運動会明けの1時間目の授業開始5分間の実践について、「あいさつ」「号令」「健康観察（出席確認）」「運動会明けのルール確認」「板書」のそれぞれの指導において、発声・正対・

視線といった授業基本動作（形式面）と指示・板書・説明といった指導基本スキル（内容面）が求める基準を満たしているかを講師が確認し、評価を付けました。合わせて、1人5分の模擬授業をグループ全員で実施後、受講者による相互評価の発表及びワークシートの作成により自身の振り返りと他者からの学びを明らかにしました。



授業診断結果票（振り返りシート）

④第3回スクーリング（まとめ）

【目的】

- ・反転学習やスクーリングでの学習、校内研修での指導を通じて得た学びをグループ協議等で共有し、更なる成長に活かす。
- ・「どの子にも分かる授業づくりに必要な3か条づくり」を通して、2年次に向けて取り組むべき指針を明確にする。
- ・e－講座で学習した基礎基本が今後の課題解決や改善方法の考察において指針となることを確認する。



【内容】

第3回スクーリングでは「どの子にも分かる授業づくり」をテーマに、9月からの授業実践の振り返りと12月までに管理職または指導教員による授業観察において指導を受けたことを踏まえて、「どの子にも分かる授業づくりに必要な3か条づくり」を行いました。グループ協議や全体発表等のワークを通じて、2年次に向けて残りの期間で取り組むべきことを明確にするこ

とを目指しました。合わせて3か条づくりを通して、児童生徒の発達段階に応じて対応を変える必要はあるものの、授業空間づくりや学習意欲喚起においてコミュニケーションスキルが重要であることの確認ができたと共に、受講者が今後新たな課題に直面した際、反転学習等で確認した授業基本動作や指導基本スキルを活用することが課題解決や改善方法の考察を進める上で参考となることを確認する機会になりました。

【実施形態】

第10回校外研修を第3回スクーリングとして位置付け実施しました。全受講者を12グループ(約9名×12)に分け、前述(4)④で設定した指定日に参加してもらいました。

当日は以下のようなタイムテーブルで実施しています。

時間	内容
14:00~14:15	研修のねらい・目的
14:15~14:45	1年間のふりかえり・個人ワーク・グループ協議
15:00~16:00	ジグソー・グループ協議・発表・統括指導主事講評・まとめと振り返り
16:05~16:30	指導課長講話・指導主事より事務連絡・アンケート記入

【使用教材】

e-講座の対応例映像及びスクーリング用ワークシートを使用しました。

【進め方】

平成27年度まではグループ協議の課題を、受講者が2年次に向けて変化・変容を作りやすいと考えられる「表情」「めあてと振り返り」「発問」の3つのキーワードに絞って提示し、現時点での自身の課題を見直し、課題の改善や解決行動を考え共有する内容で実施しました。



平成28年度は、より参加型の研修となるように、グループ協議にジグソー法の手法を取り入れ、個々の受講者がこれまで受けた様々な指導や考えたことを持ち寄り、当事者意識を持って「どの子にも分かる授業づくり」を実践していくための手立てを考えることに注力しました。まとめに全体共有の時間を確保することで、全受講者の意識向上に役立てました。

■スクーリングでのグループ協議の実施内容

「どの子にもわかる授業づくり」を考える(個人・グループ協議)

形態	時間	学習内容と進め方
個人ワーク	30分	授業診断や校内研修指導の振り返り *「どの子にもわかる授業」とはどんな授業か、そのためにどのような行動を取るべきかを考える。
グループ協議	50分	グループ協議による3か条づくり *KJ法を用いて個々の意見をグループで分類、協議、共有し、グループでの3か条をまとめ、ポスターに書き出す。 *グループメンバーの半数が別グループへ移動。作成した3か条を相互に発表。自グループ3か条についてプレゼンテーションを行う。移動先グループのメンバーよりフィードバックを受ける。

		<ul style="list-style-type: none"> *移動先グループのメンバーのプレゼンテーションを受ける。 *自グループに戻り、移動先グループより受けたフィードバックやプレゼンテーションを受けた内容を共有する。 *自グループでまとめた3か条を改めてポスターに書き出す。
全体共有	20分	各グループで改めてまとめた3か条をポスターセッション的に掲出し、代表者による発表を通じて、全体で共有する。

(7) 実施上の留意事項

① e-講座による反転学習

- ・ベテラン教員の経験や教育技術を伝承しきれない状況を補完するため行っていた校外研修における一斉指導（講義）の効率化を図る代替手段であり、反復学習することで受講者の授業基本動作や指導基本スキルの向上を図るものです。
- ・そして、各講座のテーマに応じて自らの授業を振り返り、自身の課題を抽出し、手立てを考えるレポート作成とその後の取組について校内研修で管理職や指導教員から指導を受けることが受講者の授業力向上には重要です。そのため映像講座はただ視聴しただけ、レポート作成も受講者が一人で形式的に作成しただけ、という状況に陥らないように管理職及び受講者へその趣旨を周知することが必要です。
- ・オリエンテーション等で趣旨の説明や周知を行ったとしても初任者研修（校内研修）計画との関連性のない状況で行われると、指導教員や先輩教員からの指導・助言と齟齬が生じたり、反転学習やレポート作成が追加課題として過度な負荷となったりする懸念があります。そのため、e-講座による反転学習で扱う内容（授業基本動作や指導基本スキル）や、それらを踏まえた研修計画について、管理職や指導教員以外を含めた学校全体で意識の共有を図る必要があります。

②第1回スクーリング（講義・演習・グループ協議）

- ・参加型の研修とするためアクティブラーニングの手法をグループ協議に採り入れ、協同学習型の授業を進めていく上での手法の習熟を図りました。一方で、特に実施段階（5月）では、グループ協議の実践に慣れない受講者が多く、協議進行や時間管理、論点整理等に滞りが生じたり、深められなかったりしたため、司会進行役やタイムキーパー、書記等の役割分担を決める指示を出したり、KJ法を進めている際に書き出し方やまとめ方についてグループを巡回指導するなど、スムーズな進行を促す必要があります。
- ・グループ協議で課題の解決策をまとめて、共有を図ることができたとしても、自身の行動に反映できているかどうかの方が重要です。そのため本研修プログラムでは、全員が模擬授業の実践を組み入れ、自己評価と相互評価を行うことで課題の焦点化を図りました。
- ・自己及び他者の評価、いずれについてもe-講座による反転学習で確認した内容に照らして行うこととしましたが、他者の評価において、良かった点の記入はほぼ全員が行っているものの、課題を感じた点の記入については空欄が目立ちました。自身をメタ認知して自身の見られ方に対する意識を高めると共に、他者の実践を児童生徒の目線で見ることの意識を高める指導が必要であると考えます。

- ・グループ編成は小中連携・他学年・他教科理解を意識して混合グループとして編成し、横のつながりの醸成をねらい、第1回～第3回のスクーリングを通じて同じグループで運用しました。自己研鑽的な活動へ発展することを期待しつつ、馴れ合いが生じないように留意が必要です。

③第2回スクーリング（模擬授業診断）

- ・受講者全員が一人5分間の模擬授業（授業開始の5分間）を実践し、授業空間づくりの基本事項の定着度（発声・正対・視線といった授業基本動作と指示・板書・説明といった指導基本スキルに分けて評価）と課題について、振り返りシートで可視化・焦点化し、初任者研修（校内研修）等での管理職や指導教員による指導・助言に役立てるものです。
- ・今年度は振り返りとその後の校内研修等での指導が活かされることに力点を置きました。
- ・授業診断で評価した授業空間づくりの基本事項を実際に活かす場面では、常に学校の状況、子供たちやクラスの状況に応じて変化させることが重要です。したがって、e-講座による反転学習を含めた一連の研修の意図について、管理職や指導教員の理解を求めることが必要です。合わせて、初任者の年間研修計画において、反転学習の補完同様、授業診断の振り返りと事後指導が組み込まれるように連携を図ることも必要であると考えます。
- ・受講者は模擬授業診断について評価を受ける機会と捉えている傾向があるため、他者をしっかり見取り、その実践から学ぶ意識を事前の通知や当日の導入で強調しておく必要があります。

④第3回スクーリング（まとめ）

- ・協同学習型の授業を進めていく上ではアクティブラーニングの手法を採り入れ実践することが重要ですが、集合研修はグループワークやロールプレイ、ディスカッションなどを実際の授業において運用していくための経験を重ねる場としても有効です。予定したプログラムを遂行して形式的な共有を優先するよりも、受講者全体の学びが最大限深まるように内容の充実につながる柔軟な対応をすることが必要です。
- ・足立区初任者研修については、教育委員会が民間教育事業者へ委託した研修という側面がありますが、研修の委託・受託関係といった形式的な関わり合いでは、実質的な協働連携を図ることはなかなかできません。公教育と民間企業ではそれぞれが求められる役割や立場、文化的な違いはありますが、「我が国の将来に向けた継続的な発展・繁栄の維持」「様々な分野で活躍できる質の高い人材育成」「児童生徒の学力向上並びに教育環境の充実」を目指しているという点で目的を一にしていると思います。よって、研修プログラムの開発から実践、協働連携の実現においては、双方が互いの状況を理解し尊重し、意見交換と調整を密に行いながら、進めて行くことができる関係構築をしっかりと行っていく必要があると考えます。

(8) 研修の評価方法、評価結果

①研修の評価方法

研修の評価方法として、①反転学習の実施状況（受講履歴データ等）及びe-講座活用に関するアンケート、②第1回スクーリングで実施した受講者アンケート、③第2回スクーリングで実施した授業診断に基づく振り返りシート、④第3回スクーリングで実施した受講者アンケートを用いています。合わせて、それぞれの項目について、受講者及び研修実施者等からヒアリングし

た内容と研修担当講師の所見を付記しています。

②研修の評価結果

1) e-講座による反転学習

表1)より「反転学習の通知・指示は分かりやすかったか」の問いに「はい」という回答が100%でした。4月の説明会、オリエンテーションでeラーニング教材の内容やアクセス方法、研修スケジュールをまとめた資料を初任者、管理職に配布したことが奏功したものと考えられます。

表2)より「反転学習の時間は確保できたか」の問いに「はい」という回答が98名中87名(89%)でした。受講者の大半が反転学習の時間を確保し、授業づくりの基礎基本を確認することができたようです。計画を明示したことや、視聴時間が短時間に区切られている教材だったことも、時間確保に寄与していると考えられます。

校種	区分	経験	はい	いいえ	総計	割合
小学校	正規	無	25		25	100%
		有	22		22	100%
		未記入	2		2	100%
	期付	無	12		12	100%
		有	1		1	100%
		未記入	2		2	100%
	未記入	無	3		3	100%
小計		67		67	100%	
中学校	正規	無	14		14	100%
		有	10		10	100%
	期限付	無	6		6	100%
		有	1		1	100%
	小計		31		31	100%
合計		98		98	100%	
校種	区分	経験	はい	いいえ	総計	割合
小学校	正規	無	25		25	100%
		有	20	2	22	91%
		未記入	1	1	2	50%
	期付	無	12		12	100%
		有	1		1	100%
		未記入	2		2	100%
	未記入	無	3		3	100%
小計		67		67	100%	
中学校	正規	無	9	5	14	64%
		有	9	1	10	90%
	期付	無	4	2	6	67%
		有	1		1	100%
	小計		31		31	100%
合計		87	11	98	89%	

表3), 表4)より, eラーニング教材の内容が参考になり, かつ実践している初任者の割合は, 97名中88名(91%)となっています。このことから反転学習, スクーリングを経て, 校内研修, 日々の授業の実践でも授業づくりの基礎基本を意識して実践していることが読み取れます。

参考になった	実践している		総計	
	○	×		
小学校	○	63	3	66
	×	2	1	3
中学校	○	23	5	28
	×	0	0	0
総計	88	9	97	
参考になった	実践している		総計	
	○	×		
小学校	○	65%	3%	68%
	×	2%	1%	3%
中学校	○	24%	5%	29%
	×	0%	0%	0%
総計	91%	9%	100%	

「参考になったか(理解)」と「実践しているか(実践)」に関する担当教科別内訳は, 表5)の通りです。科目特性による分布は特段見受けられませんでした。

表5) 担当教科

参考になった	教科	実践している		総計	
		○	×		
小学校	○	音楽	2		2
		家庭	1		1
		算数	4		4
		図工	3		3
		全	39	2	41
		特支	1		1
		未記入	13	1	14
		小計	63	3	66
		×	図工		1
	全	1		1	
未記入	1		1		
小計	2	1	3		
参考になった	教科	実践している		総計	
		○	×		
中学校	○	英語	7	2	9
		技術	1		1
		国語	1		1
		自立	1		1
		社会	1		1
		数学	7	2	9
		保体	1		1
		理科	4	1	5
		小計	23	5	28
	×		0	0	0

表6) 反転学習後の活用状況 (小学校)

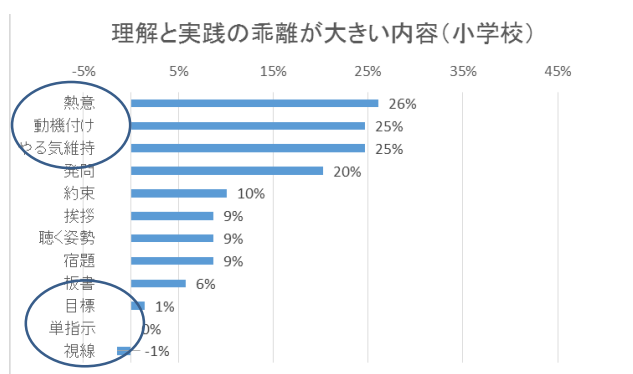


表6)より、小学校では、視線、単指示、目標の活用度が高い傾向があります。校内研修における初任者への指導でも、指示を短く端的に出すこと、児童一人一人を見取ること、つぶやきを拾うことの大切さが強調され、さらに授業づくりでは「学習のめあてと振り返り」を必ず行うことが徹底されていることによるものと考えられます。

熱意、動機付け、やる気の維持等児童の内面に働きかける指導スキルについて活用が十分でないと感じている初任者は約25%で、成果が見えにくい項目のため、活用の実感がわきにくいことにも起因すると思われます。

表7) 反転学習後の活用状況 (中学校)

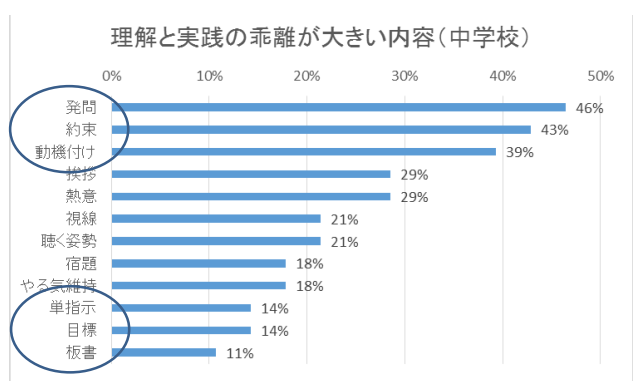


表7)より、中学校では、板書、目標、単指示の活用度が相対的に高くなってはいますが、授業の中で十分に実践できていると感じている初任者は小学校に比べて少なかったです。

動機付け、約束、発問等生徒の内面に働きかける指導スキルについては活用が十分ではないという初任者が約40%前後とかなり高い割合になっています。重要性については理解しつつも、実践については思春期の生徒を対象にしたコミュニケーションの難しさを実感していることにもあるのではないかと考えられます。

表8) 反転学習後の活用状況 (全体)

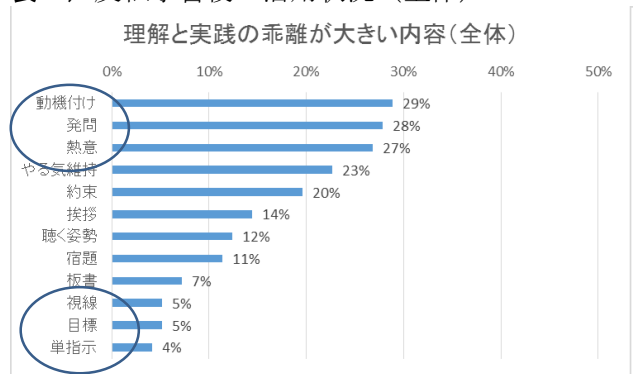


表8)より、小中ともに単指示の実践の割合が最も高かったです。実際の授業の中で、教師の指示の出し方がよくないと児童生徒が迷い、騒がしくなってしまうことを十分に理解し、特に意識的に実践したことがうかがえます。教師の単指示に留意した行動が児童生徒の学習への取組姿勢の変容として見取れたコメントの多さからも、活用度は高いと言えます。

小中で割合の差はあるものの、視線、目標、単指示についてはほぼ同様の傾向となりました。これらは実践しやすく効果が上がりやすい項目と言えます。

[担当講師より]

e-講座を通して、授業づくりの基礎基本を確認し、解説映像で示した対応例により、課題解決の手立ての一例を学び、レポート作成を通じて自身の授業を振り返っていただきました。課題の抽出と優先順位付けを行い、改善行動の指針を得た上で、日々の授業実践に活用することを目的としていますが、概ね実践できていました。

[研修実施者より]

足立区教育委員会より4月1日に校長宛に通知、4月26日にオリエンテーションを行い、受講

状況の進捗及び年間を通じた研修の流れを確認しました。そのため、5月のスクーリングまでの映像講座の受講（反転学習）をスムーズに進めることができたと思います。

2) 第1回スクーリング（講義・演習・グループ協議）

表9) スクーリング受講生の内訳

教員経験(数)					教員経験(割合)						
校種	区分	無	有	未記入	合計	校種	区分	無	有	不明	合計
小学校	正規	25	22	2	49	小学校	正規	37%	33%	3%	73%
	期付	12	1	2	15		期付	18%	1%	3%	22%
	未記入	3			3		未記入	4%	0%	0%	4%
	小計	40	23	4	67		小計	60%	34%	6%	100%
中学校	正規	14	10		24	中学校	正規	45%	32%		77%
	期付	6	1		7		期付	19%	3%		23%
	未記入						未記入				
	小計	20	11		31		小計	65%	35%		100%
合計		60	34	4	98	合計		61%	35%	4%	100%

表9)によれば、正規採用者も期限付任用講師もともに、教員経験者と未経験者が混在していました。このような状況

においては、研修時に相互に高め合う仕掛けづくりが求められます。教員として児童生徒の前に立つ際の、授業における基礎基本の重要性の確認、反転学習による授業の自己点検及び理解の振り返りを行うという共通理解の下、研修を授業力向上に役立てるための機会として、未経験者のみならず、経験者にも有用な研修となるように心がける必要があります。

当日のアンケート結果からは、研修の目的に照らして、「反転学習での振り返り・基本の確認」を行った上で、受講者の大半が「主体的な課題設定の下、明日からの自らの実践を考えて受講」とすると共に、「学びを通じて、課題の再発見・改善行動の指針」をつかむことができたものと読み取れます。

① 研修の内容は分かりやすいものであった(4段階評価)

(4 たいへんあてはまる 3 あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない)

校種	区分	経験	4	3	2	1	総計	平均
小学校	正規	無	22	3			25	3.88
		有	17	4	1		22	3.73
		未記入	2				2	4.00
	期付	無	10	2			12	3.83
		有	1				1	4.00
		未記入	2				2	4.00
	未記入	無	3				3	4.00
		小計	57	9	1		67	3.84
	中学校	正規	無	12	2			14
有			10				10	4.00
期限付		無	6				6	4.00
		有	1				1	4.00
小計		29	2			31	3.94	
合計		86	11	1		98	3.87	

概ね高評価で、98名中97名(99%)がたいへんあてはまる・あてはまると肯定的に回答しています。「反転学習での理解の振り返り、基本の確認の重点化を図ったこと」で、研修の効率化と理解の定着に資するものとなったようです。研修のねらいにある「当日の研修で、反転学習での理解の振り返り・基本の確認ができたか」という点については、概ね達成できたと言えます。

② 研修の内容は学校での実践に活用できるものであった(4段階評価)

校種	区分	経験	4	3	2	1	総計	平均
小学校	正規	無	20	4	1		25	3.76
		有	17	5			22	3.77
		未記入	2				2	4.00
	期付	無	12				12	4.00
		有	1				1	4.00
		未記入	2				2	4.00
	未記入	無	3				3	4.00
		小計	57	9	1		67	3.84
	中学校	正規	無	14				14
有			8	2			10	3.80
期限付		無	5	1			6	3.83
		有	1				1	4.00
小計		28	3			31	3.90	
合計		85	12	1		98	3.86	

98名中97名(99%)がたいへんあてはまる・あてはまると肯定的に回答しており、研修のねらいにある「主体的な参加・学びの深まりがあったか」という点についても、十分手応えを感じてもらえる内容だったと言えます。各回約30名を7~8名、4グループに分けて実践したことで、受講者が「主体的な課題設定の下、明日からの自らの実践を考えて受講できた」ようです。

③ 研修の内容は自己の資質向上に役立った(4段階評価)

校種	区分	経験	4	3	2	1	総計	平均
小学校	正規	無	21	3	1		25	3.80
		有	17	5			22	3.77
		未記入	2				2	4.00
	期付	無	12				12	4.00
		有	1				1	4.00
		未記入	2				2	4.00
	未記入	無	3			3	4.00	
	小計		58	8	1	67	3.85	
中学校	正規	無	14				14	4.00
		有	8	2			10	3.80
	期限付	無	5	1			6	3.83
		有	1				1	4.00
	小計		28	3		31	3.90	
	合計		86	11	1	98	3.87	

自己の資質向上に役立ったかという点については、98名中97名(99%)がたいへんあてはまる・あてはまると回答しています。グループで定めた行動指針を基に、実践と相互評価、振り返りを行ったことで、自己の資質の見つめ直しと改善への意欲から課題の再発見ができたようです。この点から、研修のねらいである「学びを通じて、課題の再発見・改善行動の指針がつかめたか」という点にも繋がっているとと言えます。

[担当講師より]

各班でグループリーダー、タイムキーパー、書記の役割を決めて、ワークやロールプレイを受講者が主体的に取り組める状態を作りました。自分の置かれた状況に即してどのように実践するかを考えた上で、他者と意見交換し、グループワークで共通理解を図りました。挨拶・視線・単指示といった授業基本動作や指示・説明・板書といった指導基本スキルについて、目的や意味を考え実践することの大切さや難しさを改めて理解し、新たな課題として捉え直す機会としました。受講者一人一人が主体的に高いモチベーションで研修に取り組み、共に学び、高め合う姿勢が、ワークやロールプレイを通じて見取ることができました。

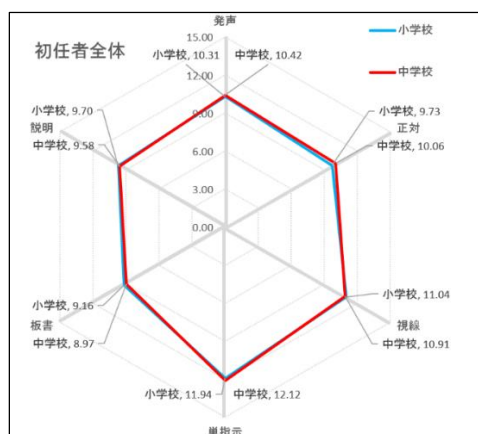
[研修実施者より]

30名程度の少人数で3回に分け、受講者が「聞く」「観る」だけでなく、実際に行うことができるところが研修を有意義なものにしていました。また、昨年度は各グループの代表が先生役、その他が児童生徒役と役割分担をして行いましたが、本年度はグループ内でどの受講者も先生役、児童生徒役を行うことでより充実した研修となりました。

3) 第2回スクーリング(模擬授業診断)

授業診断結果から読み取った評価事実と成果を記入

	発声	正対	視線	指示	板書	説明
小学校	10.31	9.73	11.04	11.94	9.16	9.70
中学校	10.42	10.06	10.91	12.12	8.97	9.58
全体	10.35	9.84	11.00	12.00	9.10	9.66



小中ともに各項目における評価はほぼ同じ傾向でした。授業基本動作の発声、視線及び指導基本スキルの単指示は、5月スクーリングで行動指針を作り、実践と相互評価を含めて深めた学びと課題の再発見が奏功して概ねできています。一方、授業基本動作では正対、指導基本スキルでは板書と説明に課題が見られました。校種別・学年別・教科別に比較してみると、小学校の特別支援担当の評価が高い傾向がありました。e-講座での学びに加え、児童一人一人に向き合う姿勢が、評価項目の随所に表れており、他の教員にも気づきを与えていました。

[振り返りシート]

① 受講者の掲げた最優先課題の内容と傾向

振り返りシート中の講師コメントから、受講者自身が課題をしっかりと捉え、改善に向けた具体的行動計画に基づき、管理職や指導教員の支援を受けながら、授業力向上に役立てていることが読み取れます。課題として多く取り上げられていたのは以下の3点です。

- ・板書…板書時の姿勢・文字の丁寧さ・バランス・レイアウトに関すること
- ・説明…児童生徒に伝わる話の内容・話し方に関すること
- ・正対…立ち位置・立ち姿・姿勢に関すること

② その後の指導を経て課題解決したか

8月の宿泊研修での振り返りと9月～12月の研究授業における指導主事の見取り、12月までの日々の授業での実践と校内研修を通じての管理職・指導教員による振り返りから、受講生全員が何らかの課題解決の一步を踏み出せていました。1月中に回収した振り返りシート55名分(小学校34名分・中学校21名分)では、管理職・指導教員評価のコメント全てに、授業基本動作及び指導基本スキルの向上のために、受講者が積極的に取り組んでいる姿勢や受講者の行動変容による児童生徒の変容が記載されていました。受講者の成長を願って、現在の取組をさらに高めることや新たな課題を設定し、改善に取り組む指針を示すものもありました。

[担当講師より]

今年度は、同僚間での「相互評価」として、模擬授業実践時に記入したアドバイスシートを、全員の模擬授業終了後に交換し、自ら振り返るとともに他者からのコメントからも振り返ってもらいました。まとめとして講師より総評を行い、「教師力養成塾e-講座を何回も見直して、校種や学年、指導教科、児童生徒の実情に即した『授業開始時3分間』が無意識に実践できるように努めること」そして、「本日の研修を通して皆さんに学んでいただいたことが礎となり、その上に授業技術が加わることで、児童生徒一人一人に伝わる授業、分かる授業ができるようになること」を強調しました。

研修後の振り返りシートをもとに、管理職・指導教員とともに校内研修で振り返りを行い、8月の宿泊研修では指導主事が受講者の振り返りシートを回収し、課題改善をもとにした模擬授業を実施しました。授業の基礎基本について受講者が自信を持って実践できているところから、9月以降の研究授業によい形で接続できる見通しが立ったようです。さらに校内研修でこの振り返りシートを利用し、管理職や指導教員が授業観察とフィードバックを行った履歴が、受講者の授業における行動変容として報告されています。

[研修実施者より]

授業診断の結果から、受講者が自分の課題を把握し、夏の宿泊研修での模擬授業に向け、改善策を考えることができました。さらに、宿泊研修での指導を踏まえて日々の授業改善を行い、管理職・指導教員による授業観察と指導で、授業力を向上させることができました。

4) 第3回スクーリング（まとめ）

初任者研修のまとめとなる「第10回初任者研修」を「授業基礎研修のスクーリング③」として、実施しました。「どの子にもわかる授業づくりに必要なことは何か」をテーマに、グループ協議とジグソー法の実践による協同学習を通じ、授業づくりの基礎基本を振り返ると共に、2年目に向けた子供の反応を見取り対応する力を高めることを研修のねらいとしました。研修全体の進行は講師が行いながら、グループ協議とジグソー法の実践は、受講者が役割分担に基づいて進行していく形を取りました。

[受講者アンケートより]

① 研修の内容は分かりやすいものであった(4段階評価)

校種	区分	経験	4	3	2	1	未記入	総計	平均
小	正規	無	26	13			1	40	3.7
		有	3	1				4	3.8
		未記入	1	1				2	3.5
	期限付	無	10	4				14	3.7
		未記入		1				1	3.0
		未記入	無	1				1	4.0
	未記入	有	1					1	4.0
未記入		1	1			1	3	3.5	
小計			43	21	0	0	2	66	
中	正規	無	15	4	1		2	22	3.6
	期限付	無	5				1	6	4.0
	未記入	未記入	2					2	4.0
	小計		22	4	1	0	3	30	
総計			65	25	1		5	96	3.68

概ね高評価で、96名中90名(94%)がたいへんあてはまる・あてはまると肯定的に回答しています。授業づくりの基礎基本の振り返り、授業基本動作と指導基本スキルの重要性を確認するとともに、授業を自己点検し、ワークの進め方も受講者が主体的に行えた成果と言えます。

② 研修の内容は学校での実践に活用できるものであった(4段階評価)

校種	区分	経験	4	3	2	1	未記入	総計	平均
小	正規	無	28	11			1	40	3.7
		有	4					4	4.0
		未記入	1	1				2	3.5
	期限付	無	11	3				14	3.8
		未記入		1				1	3.0
		未記入	無	1				1	4.0
	未記入	有	1					1	4.0
未記入		1	1			1	3	3.5	
小計			47	17	0	0	2	66	
中	正規	無	13	6	1		2	22	3.5
	期限付	無	5				1	6	4.0
	未記入	未記入	2					2	4.0
	小計		20	6	1	0	3	30	
総計			67	23	1		5	96	3.70

96名中90名(94%)がたいへんあてはまる・あてはまると回答し、年間を通じた学びを「どの子にもわかる授業づくり」として、主体的な課題設定のもと、明日からの自らの実践を考えて受講できていることが分かります。

③ 研修の内容は自己の資質向上に役立った(4段階評価)

校種	区分	経験	4	3	2	1	未記入	総計	平均
小	正規	無	29	10			1	40	3.7
		有	3	1				4	3.8
		未記入	1	1				2	3.5
	期限付	無	11	3				14	3.8
		未記入		1				1	3.0
		未記入	無	1				1	4.0
	未記入	有	1					1	4.0
未記入		1	1			1	3	3.5	
小計			47	17	0	0	2	66	
中	正規	無	16	3	1		2	22	3.7
	期限付	無	5				1	6	4.0
	未記入	未記入	2					2	4.0
	小計		23	3	1	0	3	30	
総計			70	20	1		5	96	3.74

この項目についても、96名中90名(94%)がたいへんあてはまる・あてはまると肯定的に回答しています。グループワークやジグソー法で、よりよい授業づくりのために同僚の発言に真剣に耳を傾けることで、自己の資質の見つめ直しが図れています。

基礎基本を振り返るとともに、2年次に目指す授業づくり、すなわち「どの子にもわかる授業づくり」について、受講者が主体的にグループワークを進行する形で実施しました。ワークの振り

返りでは、足立区統括指導主事からも講評をいただき、まとめでは、足立区教育指導課長より「2年目になる皆さんに期待すること」という講話がありました。公教育と民間教育機関が協働して研修を共に創り、実践することができました。

[研修実施者より]

これまでのセンター研修及び校内研修を踏まえて、受講者が自己の課題を焦点化するとともに、映像講座を活用して、課題の改善に向けて自己研鑽を行い、日々の授業実践において成果を出すことができました。また、グループ演習の中では、これからの重点課題について協議し、2年目の教員としての自覚と求められる資質能力について再確認することができています。

(9) 研修全体を通して

- ① e-講座を活用した反転学習で知識・技能を習得し、校内研修を通じて理解を深める。
- ② 校外研修で、反転学習での理解の振り返り・基本の確認を行い、主体的な参加により学びを深め、新たな課題を再発見・改善行動の指針を持ち帰る。
- ③ 校内研修の振り返りを経て、授業基本動作と指導基本スキルの定着度を診断し、さらに振り返りを通して授業力向上に活かす。

これら一連の流れは「初任者の授業力向上に資するプログラム」ですが、①・②のしくみを整備することで「汎用的な初任者研修プログラム」として各自治体の参考になるものと考えます。

[研修実施者より]

授業観察をして感じるのは、足立区全ての受講者が映像講座や研修で学んだことを、実際の授業の中で実践していることです。「教室全体に行き渡るように発声する。指示を短い言葉で端的に出す。子供一人一人の反応を見取る。」基本的なことばかりですが、確実に力がついています。

(10) 研修実施上の課題

① e-講座による反転学習

・表1) (p.18) より「いいえ」の回答の理由は「授業準備、校務、補充等が優先で後回しになった／就業時間内で研修として受講する時間がなかなか取れなかった(小・経験あり)」「部活や授業準備に時間を取られている(中・経験なし)／やはり4月は忙しいので視聴が勤務時間外になる(中・経験あり)」等でした。授業準備や校務等が優先され、就業時間内での受講が困難であった受講者が少なからずいたことは確かです。

・e-講座を活用した初任者研修を校内研修の時数の中に組み入れてもよい、ということに関する周知が図られることで、校務の隙間時間を活用して効率的に学習するという仕組みがより浸透し、「教員を現場で育てる」OJTの在り方も活性化されたいと考えます。

・映像受講が、レポート提出を課した5月に集中する傾向がありました。

② 第1回スクーリング(講義・演習・グループ協議)

・ロールプレイの実践開始時、班によって取組に若干の温度差がありました。講師が班を回りながら助言を行うことで、次第に取組姿勢がより主体的になりました。予めそのことを想定して、より明確な指示や手順を簡潔に示す必要がありました。

・150分という時間内で全ての班が実践を終え、「振り返り」までを行い、学びを深めることができているわけではなかったため、時間内で完結できるように改善が必要です。

③第2回スクーリング（模擬授業診断）

・「授業基本動作」は概ね実践できていましたが、そこに本質的な意味を込めて実践できている受講者と、そうでない受講者の二極化の現象が見受けられました。5月のスクーリングで体感していたことは受講者一人一人が意識的に実践する傾向が見られましたが、自然に実践すること、見通しの持てる「めあての提示と板書」については準備性も含めて個人差がありました。

・診断前に、模擬授業の一連の流れを校内研修として管理職や指導教員に見ていただくことになっていましたが、行っている学校と本人任せになっている学校とがあったように感じられます。

・研修効果を高めるためには、研修前の準備、研修当日の実践、研修後の振り返りを一連のものとして行う必要があります。年間を通じた研修予定、研修テーマ、事前の準備、研修当日の流れ、事後の振り返りを明らかに示すと共に、どのような研修を行ったのか、受講者がどのような学びを得たのか、その学びを最大化するためには学校に戻ってどのような振り返りを行えばよいのか、を整理・提示できるようにすることが必要です。

・評価の規・基準をより明らかにするとともに、その到達率を研修成果の指標とできるように、事前・当日・事後の変容を可視化することが求められます。

④第3回スクーリング（まとめ）

・参加者96名（小学校71名 中学校25名）小中混合12グループが主体となって、ワークを同時進行していくというスタイルは挑戦的な試みでしたが、手順や方法を明らかにするとともに、ワークシートやスクリプト等をより工夫することで、一人の講師が100名を対象にしても講義型ではなく実践・演習型の研修を担当できるものです。

・年間を通じた学びを基盤に、「どの子にもわかる授業づくり」について共に考え2年目に活かすという内容をさらに高めていくには、校外研修と校内研修の連動性はもとより、東京都の場合「3年目までの若手教員育成研修」との連動性についても共に研究していく必要があります。

2 教育委員会（又は教育センター）等の訪問調査

足立区と協働・連携して開発した初任者研修プログラムと早稲田アカデミーが持っているノウハウを融合させ、足立区以外の地域でも汎用的に初任者の実践的指導力を向上させることを目指し、県市の教育委員会の協力を得て訪問調査を行いました。各地の特性と状況、研修システムのヒアリング、校外研修の見学を行い、汎用化に向けた方針を探り、初任者研修プログラム開発に取り組みました。汎用化を進めるために、自治体へ初任者研修の実施状況や内容（特に留意・工夫されている点やこれから取り組もうとされている事柄）の聞き取り調査等を行い、「別添資料」の教育委員会等の協力を得ています。

(1) 訪問調査の目的

研修プログラムの開発・汎用化を進めるため、教育委員会（又は教育センター）等の訪問調査を行い、主に以下2点についてヒアリング等を行いました。

- i) 校外研修を中心とした初任者研修の実施状況や、留意検討事項についてのヒアリング調査や視察に基づく、若手教員の指導・育成といった今日的課題に対する取組について
- ii) 当社が平成 28 年度足立区初任者研修で実施した反転学習とスクーリングをメインに構築した研修プログラムや使用した e-講座の、法定研修等での活用の可能性や必要な留意事項について

(2) 訪問調査内容

訪問調査の詳細は『別添資料』をご参照ください。

(3) 訪問調査の結果の要約

研修実施者が効率化やスリム化を図りつつ校外研修の充実やアクティブ化の必要性を感じていること、合わせて当社の e-講座や足立区で実践している初任者研修プログラム（授業基礎研修）の内容について、全部または一部が初任者の実践的な授業力向上研修に有効であるという評価をいただきました。

※主に評価された点

- ・ e-講座で基礎的な知識・技能の確認，理解を促し，研修内容の均質化を図ることができる点。
- ・ 事前と事後の学習に組み込むことで研修の効率化を図りつつ，校内研修との連携が図れる点。
- ・ 管理職や指導教員の補完により学びが深まる点。
- ・ 校外研修に協同学習型研修や実践型研修を組み込むことにより，教科・校種を超えた学びの共有とメタ認知を高める機会が得られる点。

3 平成 28 年度宮崎市初任者研修の実践

(1) 背景

足立区の初任者研修プログラムの実施状況等の振り返りを基に、「eラーニング教材等を活用した反転学習と、その学習を補完し深化を図る校外研修」に内容を焦点化し、実施期間の短縮を図ると共に事前レポートも 2 枚にとどめました。より研修の効率化を図ったものを「eラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム」として再構成し、宮崎市教育情報研修センターの協力を得て、宮崎市初任者研修の一環として実践することになりました。

足立区で実施していたものは、年間を通じた初任者研修プログラムでしたが、他の自治体での導入や活用するためにプログラムの汎用化を図り、3 か月で反転学習から校外研修・振り返りが完結できるものに再構成して実施しました。

(2) ねらい

大きく変化する社会の中で、宮崎市は「宮崎市教育ビジョン」として、自らが主体的に生きていくために必要な資質や能力をもつ『みやざきっ子』の育成を目指し、教育行政を計画的に進められています。その中で必要と考えられる以下 2 点を研修のねらいとしました。

①「確かな学力の向上」に生きる指導ノウハウの習得

基礎的・基本的な学習内容の定着並びに思考力，判断力，表現力の育成を図るために重要な児童生徒の“学びに向かう力”の向上・維持に有効な指導ノウハウを学ぶ

②「教職員の資質向上」の基本となるコミュニケーション力を高める

望ましい教職員像（宮崎を愛し，専門的力量を備えた信頼される教職員）の実現，マネジメント力や学習指導力に役立つコミュニケーションスキルを鍛える

(3) 対象および人数

宮崎市小中学校新規採用教諭 41 名

(4) 期間および日程，会場，講師

反転学習と校外研修を組み合わせ、以下のような期間及び日程で進められました。

① e-講座による反転学習

全受講者が e-講座を利用するための ID 及びパスワードの付与を受け，所属校で各自学習（校務の隙間を活用した自学自習，指導教員の指導・助言を受けながらの校内研修活用等）を進めました。

10 月 12 日（水）：各学校に研修の趣旨と流れを通知。ID 及びパスワードを送付

10 月・11 月：第 1 講座～第 3 講座・第 5 講座の視聴とレポート作成

12 月 6 日（火）：作成したレポートを研修当日に持参

②校外研修（講義・演習・グループ学習）

12 月 6 日（火）13：00～16：00 会場：宮崎市教育情報研修センター大研修室

受講者数：38 名 担当講師：杉山 正典，牛嶋 孝輔（教師力養成塾）

③管理職・指導教員による授業観察・事後指導

12 月：第 4 講座・第 6 講座の視聴

12 月：管理職・指導教員による授業観察（冒頭 15 分間の授業観察・授業後のアドバイス）

1 月 11 日（水）：研修受講報告書を宮崎市教育情報研修センターに提出

(5) 各研修項目の配置の考え方

① e-講座による反転学習

e-講座の学習期間を約 1 か月（1 週間で 1 講座を学習×4 週分）と想定して映像受講とレポート作成指示を全受講者に出しています。映像受講の時間確保ができるかどうか，受講者の受講レポートから基礎的素養の向上や授業づくり，保護者対応に活かせる学びが得られたかどうかの検証を行うことも視野に入れて実施しています。

②校外研修（講義・演習・グループ学習）

e-講座で学習した授業基本動作と指導基本スキル，保護者対応に必要とされるコミュニケーションスキルについて，振り返り，理解を深め，習得を図るための講義・演習・グループ協議を行う機会として，校外研修（第 12 回初任者研修）を実施しました。

③校内研修（事後の振り返り）

校外研修の事後の振り返りとして、管理職・指導教員による授業観察を設定することで、作成した受講レポートを受講者個々の課題改善につなげるための指導を受ける機会となるように留意しました。校外研修での学びと課題意識を、日々の実践と振り返りを通して深めていただきました。

(6) 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

① e-講座による反転学習

[目的]

- ・ e-講座の視聴を通して、授業づくりの基礎基本の確認と保護者との円滑なコミュニケーションをとるための方法を確認する。
- ・ レポート作成により日々の自分の授業や保護者対応を振り返り、管理職や指導教員の指導を整理する機会とする。

[内容]

採用後半年以上経過していることから、e-講座での学習は基礎基本の確認による自己点検の位置付けとなりました。映像受講後、受講レポート2枚（①授業づくりに関するレポート②保護者対応に関するレポート）作成を指示しています。課題映像の中の教員の授業から自分の授業における課題の考察を行います。受講時に使用するサブノートで日々の授業実践や児童生徒への指導を振り返り、課題に対してどのように行動するかを考えレポートを作成します。

[形態・使用教材・進め方]

初任者の所属校において各自学習（校務の隙間等を活用した自学自習、指導教員の指導・助言を受けながらの校内研修活用）を進めました。教師力養成塾 e-講座（第1講座「学習する空間づくり」・第2講座「授業を開く」・第3講座「授業を創る」・第5講座「保護者対応①傾聴と受容」）を利用しました。

■映像講座の視聴と受講レポート作成の流れ【授業基礎：第1講座～第3講座】

項目	時間	学習内容と進め方
映像講座の視聴	135分 (15分×3 ×3講座)	課題映像より課題発見・考察，解説映像より課題解決行動指針 *サブノートを埋めながら指導場面毎の対応の要点を確認・整理し，自分の姿を重ねて課題映像を見直す。自分だったらどのように行動するかを考え，実践する。
チェックテスト	30分 (10分×3)	各講座で学習した指導場面に関しランダムに4択出題 (20問80点合格)
レポート作成	30分	学びの振り返りと自己課題の分析 *課題の中で優先順位が高いものについて，解決指針と具体的な手立てを考え，レポートにまとめることで課題を明確にする。 ※受講者の負荷軽減を考慮し授業3講座分で1枚のレポートとしました。
校内指導	30分	完成したレポートを管理職・指導教員へ提出し，授業観察等を踏まえた指導助言を受ける。
合計	225分	研修受講報告書（指導者所見含む）を教育委員会へ提出

■映像講座の視聴と受講レポート作成の流れ【保護者対応編：第5講座】

項目	時間	学習内容と進め方
映像講座の視聴	45分 (15分×3)	3つのポイントに関する課題映像と解説映像視聴を通じた学習 *課題映像(改善すべき点のある保護者対応事例)を視聴し、改善すべき点の考察と書き出し。解説映像(改善の指針や対応例の紹介)より、サブノートを埋めながら接遇の要点確認・整理。
チェックテスト	10分	学習した指導場面に関しランダムに4択出題(20問80点合格)
レポート作成	20分	学びの振り返りと自己課題の分析 *課題の中で優先順位が高いものについて、解決指針と具体的な手立てを考え、レポートにまとめることで課題を明確にする。
校内指導	15分	完成したレポートを管理職・指導教員へ提出し、対応事例を踏まえた指導助言を受ける。
合計	90分	研修受講報告書(指導者所見含む)を教育委員会へ提出

②校外研修(講義・演習・グループ学習)

1) 授業づくり

[目的]

- ・児童生徒に伝わる話し方のポイントを整理し、実践してみる。
- ・授業冒頭の発話実践を行い、自己評価・他者評価により課題と改善すべき点を把握する。
- ・児童生徒の学習意欲を引き出す教師の発話を行動指針に落とし、明日からの授業に活かす。

[内容]

事前学習内容(e-講座のポイント・授業づくりの基礎基本)の確認と振り返りについて、講師による解説・補完、課題映像を使った演習、グループ協議及び模擬授業実践とを通じて、再確認・全体共有を行いました。「授業は開始3分で決まる!児童生徒の学習意欲を引き出す授業づくり「伝える」から「伝わる」へ」をテーマに掲げ、講義・演習、グループ協議等を通して事前学習の学びをもとに事前課題の内容(授業冒頭の発話の発表2分の準備)を受講者全員が実践し、相互評価を通して学びを深めました。



授業冒頭の発話 実践の様子

[実施形態]

第12回校外研修の午後帯前半(講義・演習3)を授業基礎研修として実施しました。

時間	内容
13:00~13:05	研修のねらい・目的、授業空間づくりと授業基本動作の確認(講義)
13:05~13:30	児童生徒が安心して学習できる授業空間づくり(個人・グループ協議)
13:30~14:10	授業冒頭の発話(2分間トークのロールプレイ・相互評価)
14:10~14:20	まとめ

[使用教材]

スクリーンとプロジェクターを使用して e-講座より抜粋した課題映像を視聴した他、グループ協議等ではスクーリング用ワークシートを使用しました。

[進め方]

参加型の研修となるようにグループ協議にアクティブラーニングの手法を取り入れ、協同学習型の授業を進める際の参考事例となるよう留意しました。5名前後の小中混合グループを8グループ設定し、全員が模擬授業を実践し、相互評価を行い、内容の充実を図りました。

■スクーリングでのグループ協議の実施内容

形態	時間	学習内容と進め方
個人ワーク	10分	反転学習で学んだ内容の振り返り *課題映像 1 シーンを再視聴し、児童生徒に伝わる話し方をするための教師の振る舞いについて、具体的にどのように行動すべきかを書き出す。
グループ協議	10分	グループ協議による行動指針づくり *KJ法を用いて個々の意見をグループで分類、協議、共有し、グループでの行動指針をまとめ、ポスターに書き出す。
全体共有	10分	行動指針の授業での活用 *各グループでまとめた行動指針と明日からどのような取組を実践するかをグループ代表が発表し、全体で共有を図る。
模擬授業及び相互評価の実施	40分	自己の課題改善と協議で共有した児童生徒に伝わる話し方をするための行動指針に基づき、授業冒頭(授業導入時)の発話2分の実践と相互評価を実施(具体的活用法) *全員参加・全員実践型のグループワークとして流れを確認。 *司会進行とタイムキーパー、実践と評価コメント順を決定。 *実践者は授業開始時2分間の発話を実践(入室・号令(挨拶)・健康観察(出欠確認)・ひと言) *他のメンバーは実践者の模擬授業を見て、良いところと改善すべきところを見取り、書き出す。 *実践について評価コメントを2名発表する。
振り返り	10分	「児童生徒の学習意欲を引き出す授業づくり～「伝える」から「伝える」へ～」に対する自己評価と研修の学びの振り返り

2) 保護者対応

[目的]

- ・「保護者との信頼関係構築の重要性」について、受講レポートをもとにインタビューワーク、グループワークを通して共有を図る。
- ・傾聴と受容のスキルを学び、保護者との円滑なコミュニケーションに活かす。
- ・保護者対応における教師の振る舞いの意義と重要性を考え、保護者対応の留意点3か条にまとめ、明日からの実践に活かす。

[内容]

事前学習内容（e-講座のポイント・保護者との信頼対応の基本）の確認と振り返りについて、講師による解説・補完、課題映像を使った演習、インタビューワーク及びグループ協議を通じて、再確認・全体共有を行いました。「あなたでよかった！と言われるために大切なこと ～『伝える』から『伝わる』へ～」をテーマに掲げ、講義・演習、グループ協議等を通して受講者へ理解を促し、実践に必要な要素を考える機会としました。



保護者対応3か条 発表の様子

[実施形態]

第12回校外研修の午後帯後半（講義・演習4）を保護者対応研修として実施しました。

時間	内容
14:35～14:40	研修のねらい・目的
14:40～14:55	保護者対応の課題の聞き取り（インタビューワーク／ペアワーク）
14:55～15:10	保護者対応の行動指針について協議（グループワーク）
15:10～15:45	保護者対応の行動指針について再協議（グループワーク・ジグソー）
15:45～16:00	まとめ

[使用教材]

スクリーンとプロジェクターを使用して e-講座より抜粋した課題映像を視聴した他、グループ協議等ではスクーリング用ワークシートを使用しました。

[進め方]

参加型の研修となるようにグループ協議にジグソー法の手法を取り入れ、今後の授業実践において協同学習の手法を取り入れる際の参考事例にできる体験的要素を加えました。5名前後の小中混合グループを8グループ設定し、他グループとの意見交換を行うことで内容の充実を図りました。

■スクーリングでのグループ協議の実施内容

形態	時間	学習内容と進め方
ペアワーク	20分	「保護者対応で心がけること」について課題の聞き取り *課題と解決に至った経緯、管理職や先輩からの指導を受けて実践していることを2分で話す。聞き手はメモをもとに1分間質問し、発表者の伝えたいことを整理。交代して同様に実践。 *「保護者対応で心がけること」についてまとめる。整理するとともに、メモをとり質問することで傾聴スキルを高める実践を行う。
グループ協議①	15分	個々の意見をグループで分類、協議、共有、グループでの行動指針のポスター書き出し
グループ協議②	20分	KJ法を用いて、行動指針について他グループと意見交換、共有、再度グループでの行動指針のまとめ、ポスター書き出し
全体共有	10分	行動指針の授業での活用 *各グループでまとめた行動指針と明日からどのような取組を実践するかをグループ代表が発表し、全体で共有を図る。
振り返り	15分	「～「伝える」から「伝わる」へ～ 保護者との信頼関係を築く5つのスキル」に対する自己評価と、研修の学びの振り返り

(7) 実施上の留意事項

・足立区教育委員会で実施した研修の成果を活かしつつ、初任者の新たな教育課題に対応する力のベースとなる授業基本動作や指導基本スキル向上、コミュニケーションスキルを高めるための汎用的な研修プログラムとなるよう見直しを図り、初めて当社の研修プログラムや研修教材を利用する宮崎市においてもスムーズな通知や反転学習の実施が行われるように留意しました。

また、スクーリングのテーマ設定や内容設定についても、反転学習内容に基づくものとしつつも、宮崎市のニーズに即した内容とするように努めています。またスクーリングの進行においても、指導主事が研修講師を務めても活用できるようプログラムや教材、ワークシートの見直し、修正を行いました。

・今回の研修プログラムの実践は、年間の初任者研修計画を各校が策定し、進めている中で追加実施する形となったため、宮崎市教育情報研修センターより各校管理職に対する通知を行い、理解と協力をいただきました。実際の運用時にも、管理職、初任者への周知・指示を分かりやすく可視化し、全体像と負荷等を予め明示できるように進める必要があります。

・事前学習としてのe-講座の受講状況を適宜確認し、宮崎市教育情報研修センターと連携を取り、受講が進んでいない受講者には、センターより個別に受講を促していただきました。その結果、当日までに受講者全員が事前学習を行った状態で研修に臨むことができたため、より研修の成果が上がりました。事前学習の徹底は研修の実効性を担保します。また、事前課題のレポート作成は、映像をふまえた自己の振り返りにも資するもので、大変効果的だったようです。

・本来であれば、4～5月に行う内容の初任者研修ですが、宮崎市では時期をずらして12月に実施したため、時期のズレへの対応が必要でした。また、宮崎市では講師経験年数の長い教員が初任者という形で正規採用されるケースが多い背景があり、基礎的素養がある程度身につけているという状況でしたので、振り返りという形で実施することで、有用な研修として活用することが可能になりました。

(8) 研修の評価方法、評価結果

[自己評価]

事前学習のレポートより、「宿題の効果的な出し方と学力向上につながる見取りの在り方」「授業1時間の流れの提示」等、映像を通じた振り返り、具体的な自己の課題の落とし込みを深く考えていたことが多く読み取れました。年度途中の通知・指示となりましたが、約1か月の期間を有効に活用し、全員が映像受講、受講レポートを提出し終わりました。事前学習・校外研修・事後の振り返りを通じて受講者が研修に意欲的に取り組んだことには、高く評価できることと考えます。

また、事前課題をふまえた管理職や指導教員の指導が行われた学校もありました。受講者は反転学習で自らの授業を振り返り、課題と改善策をあらかじめ考えた上で校外研修に臨むことができ、校外研修当日は「授業づくり」「保護者対応」について、事前学習をふまえた対話や、実践を中心としたワークショップ等、協議や実践が中心の研修が運営できました。研修を通じて、受講者の自己の振り返りと不安の解消にもつながったものと考えられます。

[受講者からの評価]

① 研修の内容は、分かりやすいものであったか

校種	経験	4	3	2	1	無回答	総計	平均	割合
小学校	無		2			1	3	3.00	67%
	有	11	7	1		1	20	3.53	90%
	未記入		1				1	3.00	0%
	小計	11	10	1	0	2	24	3.45	88%
中学校	無	1					1	4.00	100%
	有	5	6			1	12	3.45	92%
	未記入								
	小計	6	6	0	0	1	13	3.50	92%
合計		17	16	1	0	3	37	3.47	89%

② 研修の内容は、実践に活用できるものであったか。

校種	経験	4	3	2	1	無回答	総計	平均	割合
小学校	無	2				1	3	4.00	67%
	有	15	5				20	3.75	100%
	未記入			1			1	2.00	0%
	小計	17	5	1	0	1	24	3.70	92%
中学校	無	1					1	4.00	100%
	有	8	3			1	12	3.73	92%
	未記入								
	小計	9	3	0	0	1	13	3.75	92%
合計		26	8	1	0	2	37	3.71	92%

③ 研修内容は、自己の資質向上に役立ったか

校種	経験	4	3	2	1	無回答	総計	平均	割合
小学校	無	2				1	3	4.00	67%
	有	16	4				20	3.80	100%
	未記入			1			1	2.00	0%
	小計	18	4	1	0	1	24	3.74	92%
中学校	無	1					1	4.00	100%
	有	8	3			1	12	3.73	92%
	未記入								
	小計	9	3	0	0	1	13	3.75	92%
合計		27	7	1	0	2	37	3.74	92%

④ e-講座による事前学習は効果的であったか

校種	経験	はい	どちらとも いえない	いいえ	総計	割合
小学校	無	3			3	100%
	有	20			20	100%
	未記入			1	1	0%
	小計	23	1	0	24	96%
中学校	無	1			1	100%
	有	10		2	12	83%
	未記入					
	小計	11		2	13	85%
合計		34	3	0	37	92%

理論と実践の往還を図るとともに、自らの実践を省察し、管理職や指導教員の助言を受け、自らの実践的指導力を向上させることができた」と評価されたと言えます。

[管理職・指導教員からの評価]

校外研修後の振り返りとして、12月の校内研修（管理職・指導教員による授業観察・事後指導）を通して、受講生個々の課題の改善と授業実践力の向上が図られたことは、1月11日に回収した「実施報告書」記載の指導者の評価コメントから読み取ることができました。以下、一部を抜粋します。

・e-講座は、授業力向上に役立つポイントを視覚的に示したものであり、受講後、初任者が自分の課題を意識して授業に取り組むようになった。保護者対応についても具体的で、実践に活かせる内容だった。本研修は映像やレポートによる「事前学習」、研修による「実践演習」、フィードバック

研修後に回収したアンケートからは、「研修の内容は分かりやすいものであったか」の問いに「たいへん当てはまる」、「当てはまる」と肯定的に回答した受講者が89%でした。同様に「実践に活用できるものであったか」「自己の資質向上に役立ったか」の問いにはそれぞれ92%が肯定的に回答しました。研修のねらいであった「児童生徒に伝わる話し方のポイントを習得する」、「保護者との信頼関係構築の重要性を理解する」ことについて、研修の実践とアンケート結果から、効果は得られたものと考えられます。また、自由記述コメントからは「振り返り」に役立ったという声が多く、講師経験年数を重ねている教員にとっても有用であったと考えます。また、92%が「e-講座による事前学習が効果的である」と答え、事前学習による研修当日の充実、校内研修と校外研修の連動につながったようです。

以上のアンケートにより、本事業で実施した初任者研修プログラム（事前学習、校外研修、校内研修での事後の振り返り）を通じて、受講者が授業や保護者対応における自らの課題への考えを深化させ、

等の「事後学習」によって、初任者としての基礎的な知識や技能を身につけることができ、資質向上に役立つ研修だった。

・事前学習では、その日からでもすぐに見直し、確認、実践できそうな、よりよい指導をするためのポイントが多く示唆されており、初任者、指導教員ともに学びを共有し初任者の日常の指導の実態について検討することができた。数多くの指導ポイントの中から、今回は初任者が設定した課題（一度にたくさんの指示を出してしまうので、一つの指示で一つの行動を促す単指示をする）を取り上げ、日常の授業で実践を重ねた上で、12月中旬の体育研究授業で他の教諭にも参観してもらいながら、課題への取組状況を検証した。その結果、単指示、児童の反応をよく見て授業を進めるという点において明らかに改善が見られ、授業力向上に大いに役立った。

〔教育委員会研修担当者からの評価〕

一連のプログラム自体は有用だと感じます。特に経験のない初任者にとっては学びになりました。一方、今回実践した内容の場合は、経験者が大半という市の実情を考えると、扱った内容が基礎的でした。学校における個々の課題に応じたケースに置き換えて考えられるような、ケース・スタディなどを組み込むことで、より深化させることができそうだという印象を持ちました。初任者研修に組み込む場合は、以下に留意すると負担軽減と効率化、研修密度の向上につながるのではないのでしょうか。

・事前学習は、予め初任者の校内研修に組み込み、初任者研修の一部として一本化させることが望ましいです。

・初任者が、指導教員とe-講座を見て、直接会話をすることで更に学びが高まります。

・基本的事例を映像で反転学習し、センターでまとめの講義・演習を行い、統一を図る必要があります。

・映像教材を使用する効果としては、研修対象者に対して上質で均質な研修を行う点で期待が持てます。また、初任者、臨時採用者の増加による指導者の質の担保も課題になるため、指導者の研修を一定レベルに保つ面から考えても有用です。

・事前学習としては、映像自体は質が高く、学習者の学びを引き出す上で効果的です。また、学習者が評価者として気になるところを指摘しやすいです。一方で、事前学習は、初任者にとって既に研修計画が決まっている中で追加したため、負荷が大きい様子でした。初任者は忙しい中でしたが、全員が視聴の上しっかりと準備をして臨みました。その結果として、事前学習は、研修密度の向上と効率化を図る上で効果的だったと言えます。

・校外研修については、事前学習でレディネスや課題意識がそろった状態で受講できるので効果が高く、事前学習をふまえた、実践中心の研修は学びを深める上で効果的でした。一方で、設定する研修のレベルは対象者の状況（講師経験等）をふまえて調整をした方がよいでしょう。また、限られた時間の中で扱う内容については絞り込んで実施することも検討した方がよいでしょう。

・事後学習については、映像を繰り返し見ることができるので、初任者が再度研修内容を想起するのによいと感じます。

(9) 研修実施上の課題

・ 研修計画という視点から

すでに校内研修の年間計画が遂行されている中で、本研修が追加実施されたという経緯があり、学校内での負荷がかかってしまった面がありました。本研修プログラムは予め年間計画の中に、組み込んで実施できるとより効率が上がることは評価コメントから想定できます。その他具体的には、研修受講報告書の用紙を研修当日に配布しましたが、初任者への告知の際に事前レポートとあわせて提示すると見通しを立てやすくなり、研修の流れを整理しやすくなる、等の改善点がありました。

・ 実施時期について

前述の通り、本来4～5月に行う初任者研修を想定した研修内容であったため、実践を振り返るという形での実施となりました。研修の位置付けをきちんと伝えないと、時期を逸した研修と捉えられる可能性があります。時期をずらす場合は、内容面において、配慮が必要です。

・ 研修対象者の状況についての配慮

宮崎市の初任者については、講師経験年数が高い教員の採用が多かったという背景がありました。このように、研修受講者の中に、基礎的素養のある程度身につけている状況の方がいる場合、一定の配慮が必要です。事前課題を精選するとともに、振り返りという観点やルールの確認等、しっかりと伝えてから実施するとよいと思います。

・ 管理職への告知という視点から

決定から実施までの期間が短かったこともあり、eラーニング教材を活用した研修プログラムの一連の流れを可視化した資料「教師力養成塾e-講座を活用した初任者研修の流れ」を作成し、通知文と実施要項に参考資料として添えることで、管理職の理解や協力が得られやすくなるよう努めました。可能であれば校長会等で周知をする機会があるとよかったですと思います。

4 外部評価委員会の実施と成果物の作成

(1) 外部評価委員会

平成28年度教員研修センター委嘱事業（教員の資質向上のための研修プログラム開発事業）に関しまして、下記の通り外部評価会を開催いたしました。

- ①日 時 平成29年1月19日（木）14：00～16：00
- ②場 所 大阪教育大学（天王寺キャンパス）西館1階多目的ルーム
- ③出席者 外部評価委嘱者8名、事業実施者3名 計11名
- ④議事進行
 - 13：30 ～ 14：00 開場・資料配布等
 - 14：00 ～ 14：10 開会挨拶（事業実施責任者より）（10分）
外部評価委嘱者紹介、事業実施者紹介
 - 14：10 ～ 14：40 事業概要の説明（30分）
 - 14：40 ～ 15：10 質疑応答（30分）
 - 15：10 ～ 15：50 講評（各外部評価者）（40分）
 - 15：50 ～ 16：00 総括・閉会挨拶（事業実施責任者）

*外部評価委員

当社が実践した初任者研修プログラムの実施内容及び自己評価等について総括するため、以下の学識者及び教育行政実務者に外部評価委員を依頼致しました。

[学識者]

大阪教育大学教職教育研究センター 島特任教授，岡田教授，中堂准教授，麥田准教授

[教育行政実務者]

大阪府教育センター教育企画部学校経営研究室 大崎室長，川浪指導主事

奈良市教育センター教育支援課 廣岡課長，垣見課長補佐

(2) 外部評価委員の講評（概要）

授業の基本動作，指導基本スキルをカテゴライズし，1つずつ丁寧に指導している。授業の基本動作は大学でも学校でも手が回りづらい部分である。教員が子供に伝える上で大切にすべきスキル 1つ1つを学べる，e-講座を活用した初任者育成プログラムは有用であると感じる。

研修で扱っている内容は，初任者にはもちろん有用ではあるが，教員になる前にこれらを身に付ける必要がある。そのときにもeラーニングは大いに活用できる。内容は，視線，立ち位置など，「ここが重要」と細分化されているため焦点化しやすいところに価値がある。授業がうまくいかないときに，授業全体を漠然と駄目と想っていても改善策は出ない。細分化してしっかり考えていくことが授業力向上につながる。

さらに映像教材を活用するためには，様々な教育課題のポイントに沿った課題映像など，バリエーションが増えるとよい。色々な課題に応じたものがあると校内研修でも使える。

研修の組み立て方は，直面している課題の解決のヒントが集合研修にある，という位置づけで方向性を付けるとよい。校内研修と校外研修を関連づけることで，効果が最大化するよう工夫をすべきである。さらに，研修の内容習得に向けて戦略的に方向づけ，「特に身に付けたい力量形成のポイント」を絞り込むと尚よいだろう。

映像の使い方は，映像について自校の状況を共有して指導してもらえらる環境があるとよい。

民間の関わりとして，伝えきれない社会人としての常識や服務等の講義をお願いしたい。基本的なことはもっと早くやらせたい。

また，今後指導主事が若くなる現状から，指導主事が研修するときにも活用ができる。学校現場はベテラン教員がおらず，3-4年目になるとミドルリーダーにならざるをえない状況なので，今後は初任者が次の初任者をどう指導するかという視点も加味することで継続的な育成が図られていくものだと考えられる。

(3) まとめ（島委員より）

①戦後最大の大規模な改革，教育の変革に見合う教員の力をどうつけるかがとても大切。早稲田アカデミーがその一端を担う意欲は評価できる。教委の下請けをするのではなく，民間だからできる研修の型を作ってほしい。そういうことができ初めて教委との本当の協働になる。民間ならではの意欲を盛り込み，高めてもらって，よいプログラムを作ってほしい。

- ②移行期（大学4年生～採用3年目）や経験年数の少ない教員がどう育つか。5年後、10年後の学校がどうなるかにかかっている。子供たちに何を教えるかという時代は終わった。これからは何ができるようになるか。持っている知識を活用して目の前のことにどう対応できるかという力は、実は教員にこそ求められる。わかることをできるように高める観点で中身を作り上げてほしい。
- ③どう学ぶかがとても大切。eラーニングはできるようになるための1つの手立てにすぎない。ALで言われている一人で主体的に学ぶこと、皆と一緒に学び考えること等、個別学習と協同学習が組み合わさって初めてより深い理解や今までできないことができるようになる。教員研修も同様であり、eラーニングは個別の学びであり、協同的、対話的に結合しないと真価を發揮しない。よい教材を作っているが、これがちゃんと校内・校外で活かされるようなプログラムがないと、できることができるようにならない。次のステップに向けて中身を充実させていってほしい。

(4) 成果と課題

・ 成果

- 1) 本プログラムの有用性について、第三者により以下の点を評価され、価値づけられました。
 - ・プログラムは昨年12月の中教審答申で掲げている「教師は学校で育つ」に沿い、校外研修と校内研修が独立するのではなく一体化となる仕組みを目指すものとなっている。
 - ・プログラムの内容が、授業の基礎基本を「授業基本動作」「指導基本スキル」に分類し、授業を細分化してeラーニングで学ぶ仕組みとなっており、教材は初任者にとって有用であるのに加え、経験年数の長い教員にも振り返りとして活用できそうである。
 - ・教員としては「当たり前」に必要とされていることだが、それを体系化している研修プログラムはあまり存在しない。大学でも採用前でも初任者研修でも、様々な制約により充実していないことが多く、必要であることが分かった。
- 2) 当社の取組に対しての外部評価委員会の理解の深化、関係性の強化が得られました。
- 3) プログラムを開発するにあたり、より明らかにすべき点について具体的な助言が得られました。

・ 課題

本プログラム開発にあたり、課題として挙げられたことは以下の3点です。

- 1) 言葉の定義を明らかにすること。

例) 「汎用化」とはどのようなことか。「若いうちにどうしても教員に身につけてほしいポイント」が何か、それはどんな力か。「意欲を高める」前段階としての力は何か。

- 2) 力量形成のポイントを明らかにし、より発信しやすくすること。

今の若い人がどんなことで困っているのか、課題意識や問題意識といった現状の教員の分析を行い、どういう力を付けていくのか、そのためにはどんな研修を行うのか、力量形成のポイント（ねらい・目的・手法等）を発信していく必要がある。

例) eラーニングは手段であり、初任者に「何を身に付けさせるべきか」の視点を定め軸とすること。

- 3) プログラムの説明として不足している要素の追加すること。

プログラム活用につなげていくために、事例の収集に努め、発信していくことが必要である。

Ⅲ 連携による研修についての考察

1. 連携を推進・維持するための要点

「eラーニング教材を活用した初任者の授業力向上に資する汎用的研修プログラム」の開発にあたり、当社が平成27年度に受託した足立区初任者研修を参考事例に設定し、研修内容と実施状況の振り返りと見直し・検討を行いました。そして、平成28年度足立区初任者研修を開発する研修プログラムのベースとしました。反転学習（事前学習）・校外研修（講義演習・グループ協議）・校内研修（事後の振り返り）の一連の仕組みを整え、平成28年度宮崎市初任者研修を実施することで、民間教育団体が所有する知見を活用し、先進的かつ斬新な研修プログラムとして汎用化を図ることができたのではないかという感触を得ることができました。

本研修プログラムと同じような研修を実施する場合、教育委員会と民間教育事業者が研修の委託・受託関係といった形式的な関わり合いの下で進めるのであれば、実質的な協働連携を図ることはなかなかできません。公教育と民間企業ではそれぞれが求められる役割や立場、文化的な違いがあるものの、「我が国の将来に向けた継続的な発展・繁栄の維持」「様々な分野で活躍できる質の高い人材育成」「児童生徒の学力向上並びに教育環境の充実」を目指しているという点で目的を一にしていると思います。よって、研修プログラムの開発から実践、協働連携の実現においては、双方が互いの状況を理解し尊重し、意見交換と調整を密に行いながら、進めて行くことができる関係構築をしっかりと行っていく必要があると考えています。

(1) 反転学習（事前学習）の実施において

eラーニング教材や映像教材を活用して、研修内容について事前学習をしておくことで、受講者が基礎知識を持った上で、主体的な課題設定の下で校外研修に臨むことができます。受講生自らが課題意識を持ち、管理職や指導教員の事前指導を受けることで、より効果が高まります。各自治体で同様の研修を行う場合には、当社のeラーニング教材のように自治体が独自に所有するeラーニング教材や映像教材を受講・視聴する等の代替対応で実施が可能になります。本プログラムにおいて足立区や宮崎市で実施した事前学習の視聴期間設定やレポート内容と形式は、他の自治体で活用できる事例となっています。eラーニング教材や映像教材を校外研修のプログラムの一環として活用することで、これまで校外研修で実施していた内容の削減やプログラムの整理をすすめ、より実践的な研修を行うための時間確保に役立てていただきたいと考えます。

(2) 校外研修（講義・演習、協同学習等）の実施において

事前学習で得た課題意識や校内研修で指導を受けた学びを、受講生が校外研修の場で協同学習等を通じて共有を図り、事前準備に基づいた実践の客観評価を相互に行うことで自身のメタ認知を得る機会とできます。事前課題や事前学習の設定の可否等、検討すべき事項は多々あるはずですが、研修を実践的かつインタラクティブなものにしたいというニーズは高いと考えます。本プログラムにおいて足立区や宮崎市で実践したグループ協議やロールプレイを中心とした集合研修プログラムを研修内容の見直しと整理を行う際の参考事例として役立てていただきたいと考えます。

反転学習・校外研修・校内研修の連動性を持たせることで受講生の学びは深まり、学校現場に持ち帰り日々の実践に活かせるものとなるでしょう。

(3) 校外研修（模擬授業検定・模擬授業診断）の実施において

本プログラムにおいて足立区では評価規・基準を整理し、模擬授業を通して初任者ひとりひとりの課題をチェックする授業診断を行いました。授業診断の評価規・基準は当社が新人講師研修を行うにあたり重点を置いてきた「授業空間をいかにつくるか」ということに注力しています。初任者の授業づくりの基礎的な力を見取り、評価するという意味においては、汎用的に活かせるノウハウであると考えます。各自治体においては本プログラムで使用した規・基準を参考に更に独自に所有する e ラーニング教材等と連動する評価規・基準を設定し、校外研修や校内研修で活用できる教材の開発に役立てていただけたらと考えます。時間的、人的負荷も小さくないため、校外研修として取り入れることは難しい場合が多いと考えられますが、校内研修における初任者指導や管理職による授業観察に基づく指導助言の際にも活用していただけるものであるとも考えます。

(4) 教育委員会と民間教育事業者との連携・協働による初任者研修を支えるツールの開発

足立区教育委員会、宮崎市教育委員会との連携・協働の下、今年度進めた本プログラムの成果物として、以下の2点を制作しました。「授業力向上ハンドブック」は東京都での活用を想定して構成していますが、本研修プログラムを実践する際、各自治体における研修教材開発の参考事例として活用していただけるものになっています。また、本研修プログラムの概要を「初任者研修実践事例」として、ダイジェスト映像にまとめています。「実施報告書」と合わせて各自治体の若手教員の指導育成に向けた校外研修並びに校内研修の充実を図るための参考資料として活用していただきたいと考えております。次年度は足立区教育委員会、宮崎市教育委員会の初任者研修で実施した研修内容やの活用状況を振り返り、反転学習、校外研修、事後学習、それぞれの内容の精選、ツールの開発等に努めていきたいとも考えております。

2. 連携により得られる利点

e ラーニング教材を活用する研修プログラムによって、足立区教育委員会、宮崎市教育委員会からは前述の通り（Ⅱ 開発の実際とその成果を参照）、校外研修の圧縮化・効率化・充実化という点で、意義があったとの一定の評価をいただきました。また、民間のノウハウを活用した映像教材を見ることに慣れている世代の多い初任者にとって受け容れやすく、授業の基礎に特化した研修は効果が高いと感じた初任者も多かったことが、アンケート結果等からも得られました。さらに、課題の抽出と焦点化、ワークショップによる実践演習を組み合わせで行った本プログラムを、汎用化という観点から考察した場合、各自治体の教育ビジョンや人口構成、教育課題、採用状況などによって、研修内容を考えていかなければなりません。そのためには、研修を実施する自治体例と研修担当者、学校との連携が重要となります。連携がしっかりとされた上で、プログラムに則り内容を確定させ、研修を実施すれば、より大きな成果が上がるものと考えられます。

まずは研修を実施する教育委員会主管部署や指導主事等の担当者が、教材の内容やプログラムを十分に理解し、把握することが重要です。次に e ラーニング教材を活用した研修の一連の流れを可視化した資料を作成し、通知文に参考資料として添えることで、管理職の理解や協力が得られやすくなります。さらに、研修の目的や流れ、校内研修と校外研修との連動について、映像等を組み合わせ、校長会等で直接説明する機会を設けることで、校内研修の充実と活性化につながるものと考えます。

研修実施後の3月、宮崎市教育情報研修センターにヒアリングを行ったところ、今回の初任者研修

プログラムの実施が一つのきっかけとなって、学校全体で組織的に初任者研修を行っている様子や、全ての世代の教員が「授業づくり」や「保護者対応」の基礎基本について共通認識を持って資質向上に努めている様子が見られ、校外研修と校内研修の連動、校内研修の活性化につながっているようであると評価をいただいたことも、参考までに付記いたします。

3. 今後の課題と研修プログラム開発の深化に向けた取組

次年度以降は、まずは早稲田アカデミーとして公教育支援に関わる場面で、本プログラム開発事業より得た成果を、以下のように深化させていきたいと考えております。

(1) 反転学習

受講者が、より一層、本研修プログラムを活用しやすくするため、校内研修への組み込み方、学校への支援の在り方を模索してまいります。特に、映像教材を使用した事前学習については、本プログラムの肝となる部分ですので、本年度の振り返りを活かして、管理職向け、受講者向けに、より一層効果を上げられるような取組を連携先教育委員会と共に検証していく必要があります。

(2) 校外研修

プログラムの内容の更なる充実、求められる力を場合分けし、それらに応じた研修プログラムの開発を行い、より全国の自治体のニーズに応えられる実践的、汎用的なプログラムにしていくよう尽力したいと考えております。たとえば、研修の実施時間をより短縮し効率化を図ったり、研修の進め方のバリエーションを増やしたりすることについても検討してまいります。

(3) 校内研修

校外研修の反転学習、事後の振り返り学習を、校内研修で行っていくことは、個に応じた指導として非常に有効です。受講生が事前に自己の課題を焦点化した上で校外研修に臨む。そこで学んだことを持ち帰り、学校現場で実践する。振り返りをする際に、管理職や指導教員から意味付けや価値付けをされることで、受講者の学びとして深まる。これらのことが、アンケートやレポートの記述からも読み取れます。教育委員会や大学関係者の助言を得た上で、授業基本動作や指導基本スキルの定着度を評価する規・基準を参考までに明示し、より学校の現場に沿った事例を導入していきながら、全国の自治体でも活用できるプログラムの開発に努めてまいります。

IV その他

[キーワード] 初任者研修、授業力、ICT活用、eラーニング、反転学習、メタ認知、授業基本動作、指導基本スキル、アクティブラーニング型研修、ブレンデッド・ラーニング型研修、参加型、インタラクティブ、実践・演習、ハンドブック

[人数規模] C. 21～50名

[研修日数(回数)] A. 1日以内(1回)

【問い合わせ先】 株式会社早稲田アカデミー 教育事業推進部事業推進課

課長 杉山 正典 / 上席専門職 牛嶋 孝輔

〒171-0014 東京都豊島区池袋2丁目53番7号

TEL: 03-3590-4011(代) Email: youseijuku@waseda-ac.co.jp